人権に関する市民意識調査報告書

令和5年度調査

松江市

目 次

第1章	調査の概要	
1	.調査目的	1
2	. 実施主体	1
3	.調査方法	1
4	. 回答者の構成	1
5	.調査項目	2
6	. 比較対象とした調査	3
7	. 調査の精度	4
第2章	調査結果の概要	
1	. 関心を持っている人権問題	5
2	. 差別や人権侵害を受けた経験	1 1
3	. 受けた差別や人権侵害の内容	1 3
4	. 人権侵害を受けたときの対応	1 5
5	. 他人の人権を侵害した経験	1 7
6	- 1. 慣習等についての考え方(「大安」と結婚式)	1 9
6	- 2. 慣習等についての考え方(「友引」と葬式)	22
6	-3. 慣習等についての考え方(結婚時の身元調査)	2 5
7	. 女性の人権問題	2 9
8	. 子どもの人権問題	3 1
9	. 高齢者の人権問題	33
10	. 障がいのある人の人権問題	3 5
1 1.	. 同和問題の認知経路	3 7
12	. 同和問題に関する人権問題	4 1
1 3	. 同和地区の人との結婚(子ども)	4 4
14	. 同和地区の人との結婚(自分)	4 7
15	. 同和地区の住宅購入	5 0
16	. 同和問題の解決方法	5 4
17	. 同和問題解決とのかかわり	5 7
18	. 外国人の人権問題	6 3
19	. HIV感染者等の人権問題	65

20.	ハンセン病回復者等の人権問題	-67
21.	インターネット・IT に関する人権問題	-69
22.	災害時における人権問題	-71
23.	性的指向に関する人権問題	-72
24.	性自認に関する人権問題	-73
25.	LGBT等に関する人権問題の解決方法	-74
26.	LGBT等についてのカミングアウト	-75
27.	行政・教育の取組	-78
28.	研修会等への参加経験	-80
29.	研修会等不参加の理由	-82
30.	人権知識の入手経路	-83
31.	効果的な啓発方法	- 8 5
32.	研修会等への今後の参加	-88

第1章 調査の概要

1. 調査目的

この調査は、松江市の人権に関する市民意識の現状を把握し、今後の松江市の人権施策をより効果的に推進するための基礎資料とすることを目的に行う。

2. 実施主体

松江市

3. 調査方法

(1)調査対象 松江市に住民登録している18歳以上の市民

(2)標本数 2,500

(3) 標本抽出法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出

(4)調査方法 配布 郵送

回収 郵送又はインターネット回答

(5)調査期間 令和5年9月21日(金)~10月10日(月)

(6) 回収状況 抽出標本数 2,500

郵 送 戻 り 数 12

実質調査対象数 2,488

回 収 数 896 (郵送:685、インターネット:211)

回 収 率 36.0%

4. 回答者の構成

(1)年代構成

	人数(人)	割合(%)
18 歳~29 歳	46	5.1
30 歳~39 歳	92	10.3
40 歳~49 歳	130	14.5
50 歳~59 歳	174	19.4
60 歳~69 歳	164	18.3
70 歳~79 歳	188	21.0
80 歳以上	93	10.4
無回答	9	1.0
合計	896	100.0

(2)性別構成

	人数(人)	割合(%)
男性	396	44.2
女性	487	54.4
自由記載	3	0.3
無回答	10	1.1
合計	896	100.0

5. 調査項目

設		比較対象調査						
問釆	設問項目	松江市の過去調査 他機関調査						
番号		H29	H24	H18	H11	Н6	島根県	内閣府
1	関心を持っている人権問題	0	0				0	0
2	差別や人権侵害を受けた経験	0	0	0				
3	受けた差別や人権侵害の内容	0	0	0				
4	人権侵害を受けたときの対応	0	0					
5	他人の人権を侵害した経験	0	0	0				
6-1	大安と結婚式	0	0	*	*	*		
6-2	友引と葬式	0	0	*	*	*		
6-3	結婚時の身元調査	0	0	*	*			
7	女性の人権問題	0						
8	子どもの人権問題	0						
9	高齢者の人権問題	0						
10	障がいのある人の人権問題	0						
11	同和問題の認知経路	0	\circ	\circ	\circ		0	\circ
12	同和問題に関する人権問題	0	\circ	\circ			0	
13	同和地区の人との結婚(子ども)	0	\circ	\circ	\circ		0	
14	同和地区の人との結婚(自分)	0	\circ	**	*		0	
15	同和地区の住宅購入	0					0	
16	同和問題の解決方法	0					0	
17	同和問題解決とのかかわり	0	\circ	\circ	\circ		0	
18	外国人の人権問題	0						
19	HIV感染者等の人権問題	0						
20	ハンセン病回復者等の人権問題	0						
21	インターネット・IT に関する人権問題	0						
22	災害時における人権問題							
23	性的指向に関する人権問題							
24	性自認に関する人権問題							
25	LGBT等に関する人権問題の解決方法							
26	LGBT等についてのカミングアウト							
27	行政・教育の取組	0						
28	研修会等への参加経験	0	0	0	\circ	0		
29	研修会等不参加の理由							
30	人権知識の入手経路							
31	効果的な啓発方法		0	0				
32	研修会等への今後の参加	0	0	0	\circ	0		
33	性別							
34	年代							

〇:比較対象としたもの

※:比較が困難なため参考として対象調査を掲載したもの

6. 比較対象とした調査

- (1) 人権に関する市民意識調査(松江市)
 - ·調査時期:平成29年9月
 - ・調査対象:松江市に住民登録している 18 歳以上の市民 2,500 人
 - ・調査方法:郵送
 - ·回収状況:1,090人(43.8%)
 - ・本書では「平成29年調査」と略記
- (2) 人権に関する市民意識調査(松江市)
 - ·調査時期:平成24年9月
 - ・調査対象:松江市に住民登録している 20 歳以上の市民 2,500 人
 - ·調查方法:郵送
 - ·回収状況:1,022人(41.1%)
 - ・本書では「平成24年調査」と略記
- (3) 人権に関する市民意識調査(松江市・松江市教育委員会)
 - ・調査時期:平成18年6月
 - ・調査対象:松江市に住民登録している 20 歳以上の市民 5,000 人
 - ·調查方法:郵送
 - ·回収状況: 2,117 人(42.5%)
 - ・本書では「平成18年調査」と略記
- (4) 同和問題についての市民意識調査(松江市教育委員会)
 - ·調査時期:平成11年10月
 - ・調査対象: 20 歳以上の松江市民 5,000 人
 - ·調査方法:郵送
 - ·回収状況: 2,163 人(43.6%)
 - ・本書では「平成11年調査」と略記
- (5) 同和問題についての市民意識調査(松江市教育委員会)
 - ·調査時期:平成6年8月~9月
 - ・調査対象: 20 歳以上の松江市民 1,400 人
 - ・調査方法:郵送
 - ·回収状況:784人(56.9%)
 - ・本書では「平成6年調査」と略記
- (6) 島根県人権問題県民意識調査(島根県)
 - ·調査時期:令和3年11月
 - ・調査対象:満18歳以上の県内在住者3,000人
 - ·調查方法:郵送
 - ·回収状況:1,531人(51.0%)
 - ・本書では「島根県調査」と略記
- (7)人権擁護に関する世論調査(内閣府)
 - ·調査時期:令和4年8月~9月
 - ・調査対象:全国 18 歳以上の日本国籍を有する者 3,000 人
 - ・調査方法:郵送(配布:郵送、回収:郵送又はインターネット回答)
 - · 回収状況: 1,556 人(51.9%)
 - ・本書では「内閣府調査」と略記

7. 調査の精度

(1)標本誤差

今回の母集団は、令和5年6月末の18歳以上の松江市の人口で、全体:165,938人、 男性:78,855人、女性:87,083人である。

この調査は標本調査であり、今回得られた結果から母集団全体を推測することができる。 信頼度 95%とした場合、標本誤差の近似値は、次の式により与えられる。

この式によって算出した標本誤差の早見表は次のとおりである。

回答比率(P)	0.1	0.2	0.3	0.4	
	または	または	または	または	0.5
回答数(n)	0.9	0.8	0.7	0.6	
全体(n= 896)	±2.0%	±2.6%	±3.0%	±3.2%	±3.3%
男性(n= 396)	±3.0%	±3.9%	±4.5%	±4.8%	±4.9%
女性(n= 487)	±2.7%	±3.5%	±4.1%	±4.3%	±4.4%

(2) 端数処理

調査結果は回答者数を基数とした百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入したため、項 目を合計した場合、誤差が生じる場合がある。

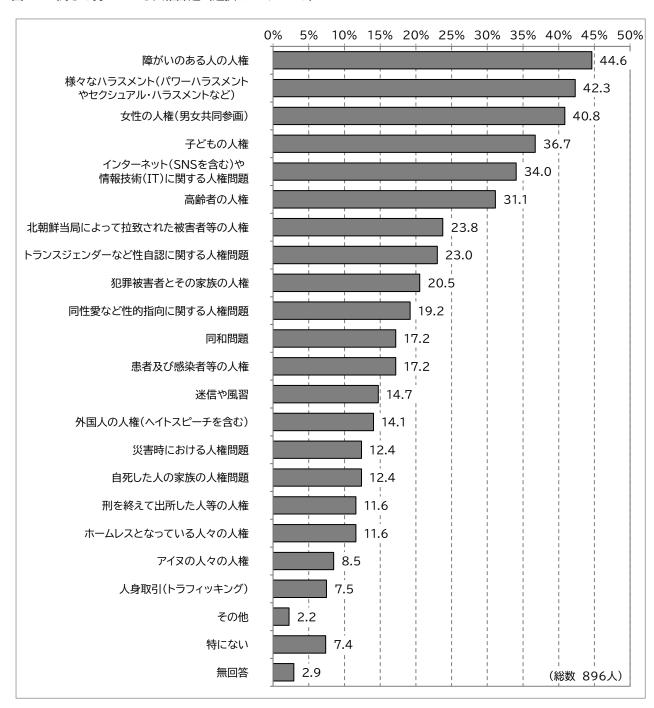
第2章 調査結果の概要

1. 関心を持っている人権課題

問1 あなたは、現在、日本における人権問題で、どのようなことに関心を持っていますか。 (選択はいくつでも)

現在、どんな人権課題に関心があるかをたずねたところ、「障がいのある人の人権」が 44.6%と最も高く、以下、「様々なハラスメント」42.3%、「女性の人権」40.8%となっている。

図 1-1 関心を持っている人権課題(選択はいくつでも)

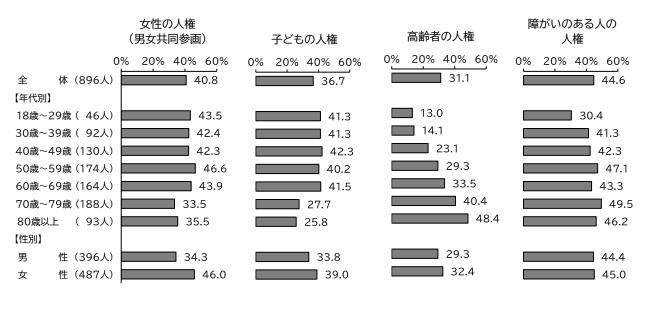


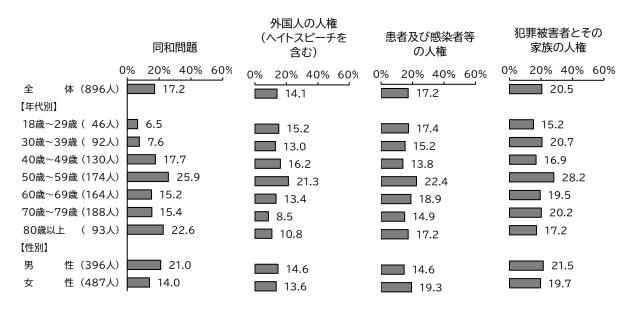
【年代別・性別の状況】

年代別でみると、「同性愛などの性的指向に関する人権問題」、「トランスジェンダーなど性自認に関する人権問題」などは、年代が低くなるほど関心が高く、「高齢者の人権」、「北朝鮮当局によって拉致された被害者等の人権」などは、年代が高くなるほど高くなる傾向にある。また、「女性の人権」、「子どもの人権」、「障がいのある人の人権」などは、年代による関心の差が比較的小さい。

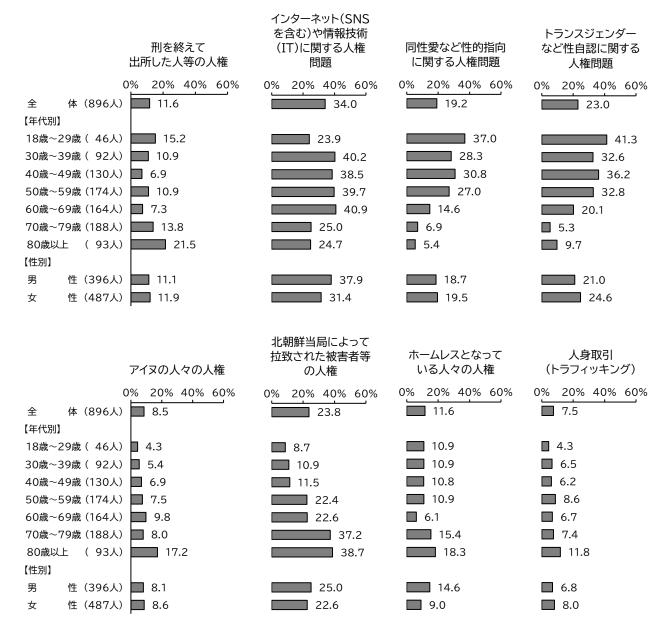
性別でみると、「女性の人権」、「患者及び感染者等の人権」で女性の関心が、「同和問題」、「ホームレスとなっている人々の人権」で男性の関心が高くなっている。

図 1-2 関心を持っている人権課題(選択はいくつでも)≪年代別・性別≫

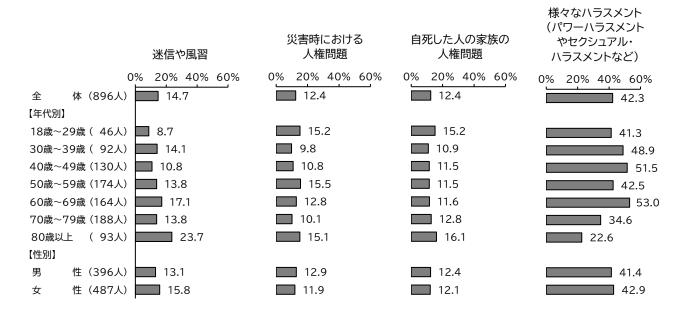




(図 1-2 のつづき)



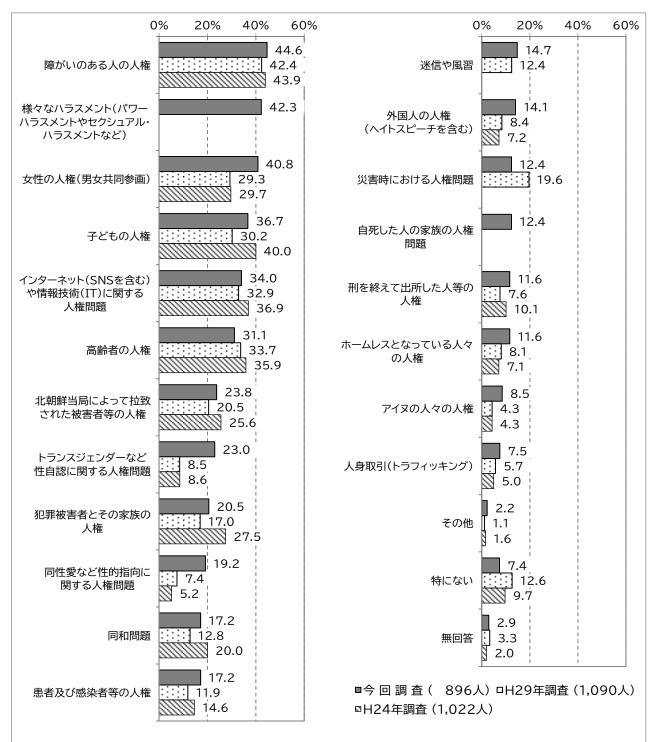
(図 1-2 のつづき)



その他	特にない	無回答		
0% 20% 40% 60%	0% 20% 40% 60%	0% 20% 40% 60%		
全 体(896人) 2.2	7.4	2.9		
【年代别】				
18歳~29歳(46人) 0.0	13.0	0.0		
30歳~39歳(92人) 1.1	6.5	0.0		
40歳~49歳 (130人) 6.2	8.5	0.0		
50歳~59歳(174人) 1.1	6.3	1 .1		
60歳~69歳(164人) 2.4	6.1	1.2		
70歳~79歳(188人)	7.4	4.3		
80歳以上 (93人) 3.2	7.5	10.8		
【性別】				
男 性(396人) 2.3	9.3	0.8		
女 性(487人) 2.3	6.0	3.9		

平成29年調査、平成24年調査と比較すると、いずれの調査でも「障がいのある人の人権」が最も関心が高くなっている。また、「女性の人権」、「トランスジェンダーなど性自認に関する人権問題」、「同性愛など性的指向に関する人権問題」などは、今回の調査で関心が高くなっている。



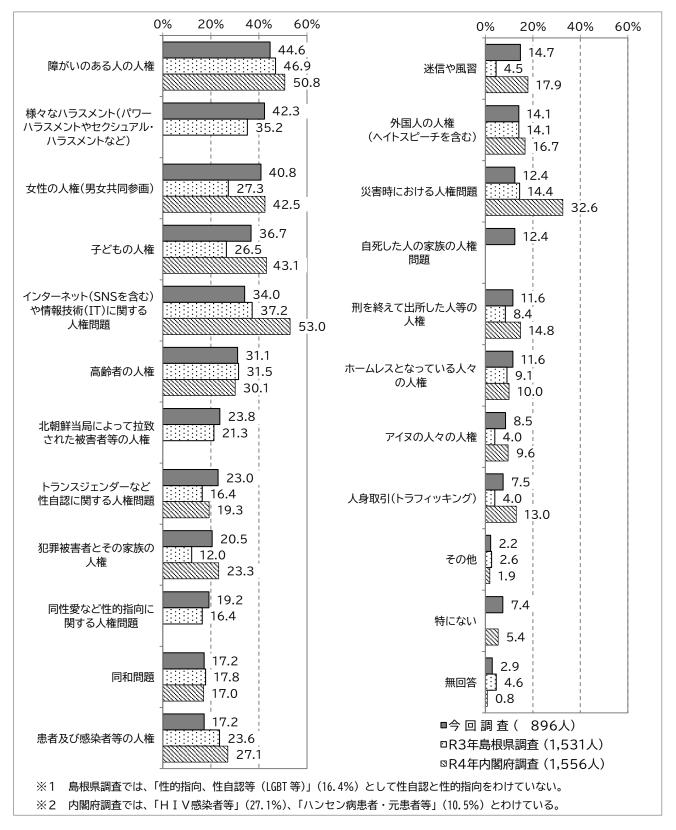


※「迷信や風習」、「災害時における人権問題」はH29年調査から、「様々なハラスメント(パワーハラスメントやセクシュアル・ハラスメントなど)」、「自死した人の家族の人権問題」は今回調査から追加した選択肢である。

【島根県調査・内閣府調査との比較】

島根県調査と比較すると、上位6項目は、順位は異なるものの同様となっている。また、「インターネットや情報技術に関する人権問題」、「災害時における人権問題」は、今回調査、島根県調査と比較して、内閣府調査が特に高くなっている。

図1-4 関心を持っている人権課題(選択はいくつでも)≪島根県調査・内閣府調査との比較≫

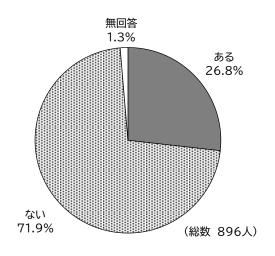


2. 差別や人権侵害を受けた経験

問2 日常生活の中で、あなた自身が差別や人権侵害を受けたと感じたことがありますか。 (選択は1つ)

日常生活の中で、差別や人権侵害を受けたと感じたことがあるかをたずねたところ、「ある」が 26.8%、「ない」が 71.9%、「無回答」が 1.3%となっている。回答者のうち 4人に 1人は、差別や人権侵害を受けた経験があると感じている。

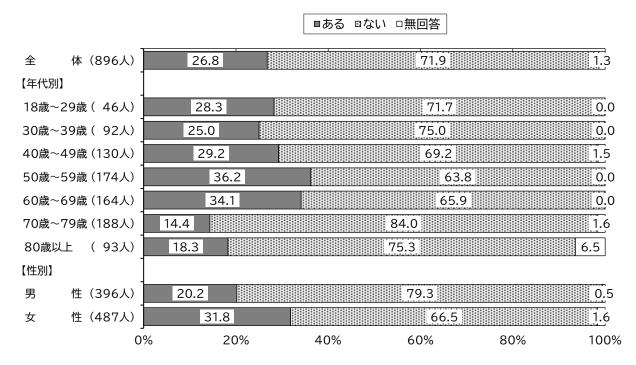
図 2-1 差別や人権侵害を受けた経験 (選択は1つ)



【年代別・性別の状況】

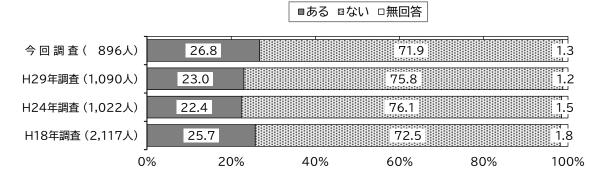
年代別でみると、「ある」が 50 歳代から 60 歳代で高くなっている。 性別でみると、「ある」が女性で高くなっている。

図 2-2 差別や人権侵害を受けた経験(選択は1つ)《年代別・性別》



過去3回の調査と比較して、大きな変化は見られないが、「ある」がやや高くなっている。

図 2-3 差別や人権侵害を受けた経験(選択は1つ)) ≪過去の調査との比較≫

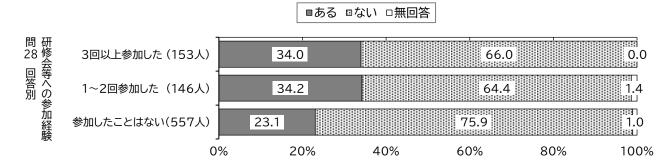


【他の設問との比較】

○研修会等への参加経験(問28)との比較

研修会等への参加経験がある人は、差別や人権侵害を受けたと感じる人の割合が高くなっている。

図 2-4 差別や人権侵害を受けた経験(選択は1つ) 《研修会等への参加経験(問28)との比較》

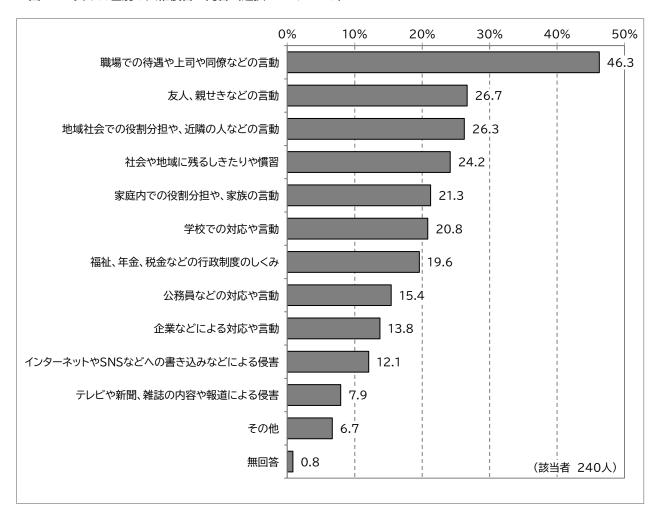


3. 受けた差別や人権侵害の内容

問3 (問2で「差別や人権侵害を受けたことがある」と回答された方に)差別や人権侵害を受けたと感じたことはどのようなことですか。(選択はいくつでも)

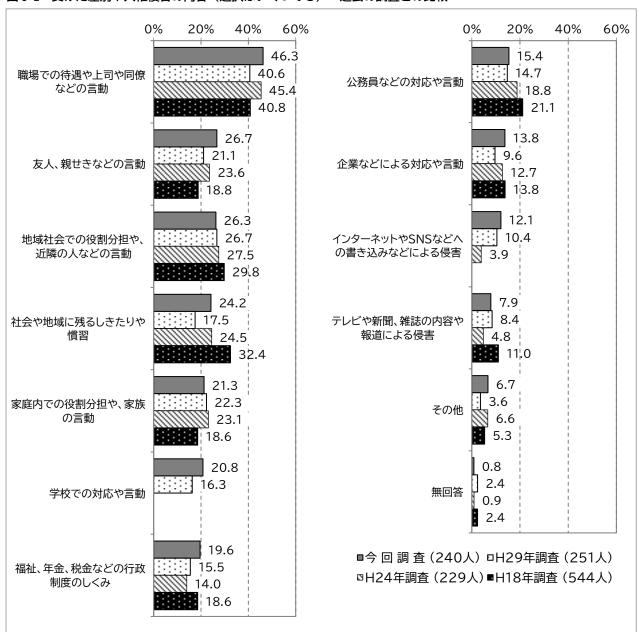
問2で差別や人権侵害を受けたことが「ある」と回答した 240 人に対して、受けた差別や人権侵害の内容をたずねたところ、「職場での待遇や上司や同僚などの言動」が 46.3%と最も高く、以下、「友人、親せきなどの言動」 26.7%、「地域社会での役割分担や近隣の人などの言動」 26.3%、「社会や地域に残るしきたりや慣習」 24.2%となっている。

図 3-1 受けた差別や人権侵害の内容(選択はいくつでも)



過去3回の調査と比較すると、大きな変化はみられないが、「インターネットやSNSへの書き込みなどによる侵害」が調査を重ねるごとに高くなっている傾向がみられる。

図 3-2 受けた差別や人権侵害の内容(選択はいくつでも) ≪過去の調査との比較≫

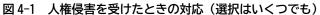


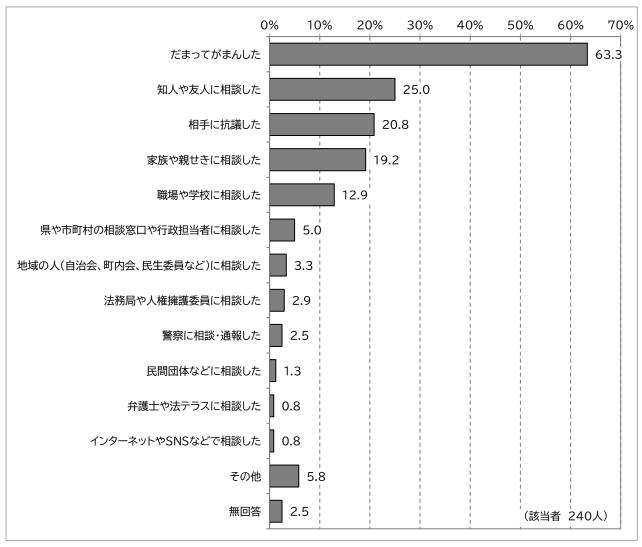
※ 「インターネットやSNSなどへの書き込みなどによる侵害」はH24年調査から、「学校での対応や言動」はH29年調査から追加した選択肢である。

4. 人権侵害を受けたときの対応

問4 (問2で「差別や人権侵害を受けたことがある」と回答された方に) そのとき、あなたはどうしましたか。 (選択はいくつでも)

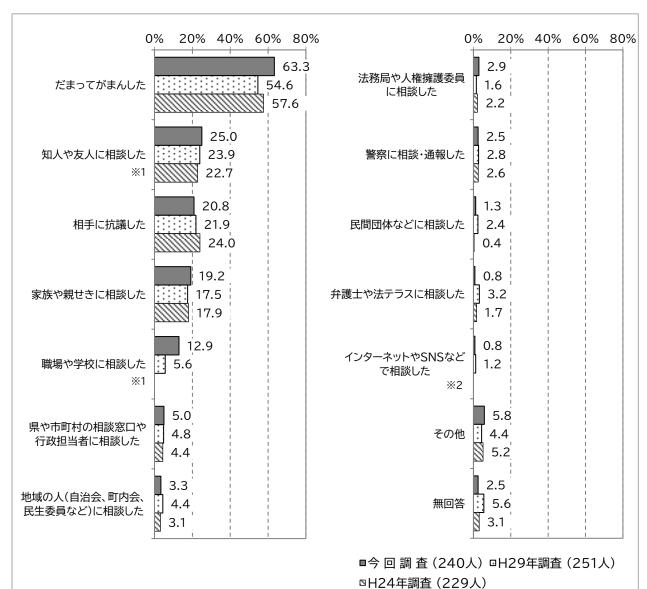
問2で差別や人権侵害を受けたことが「ある」と回答した 240 人に対して、差別や人権侵害を受けたと きの対応をたずねたところ、「だまってがまんした」が 63.3%と 6 割を超える回答があった。以下、「知人 や友人に相談した」が 25.0%、「相手に抗議した」が 20.8%、「家族や親せきに相談した」が 19.2%となっ ている。





過去2回の調査と比較して大きな変化はみられないが、「だまってがまんした」の割合がやや高くなっている。

図 4-2 人権侵害を受けたときの対応(選択はいくつでも) ≪過去の調査との比較≫



- ※1 H24年調査では選択肢が「職場の人や友人に相談した」となっており、H29年調査と今回調査では「知人や友人に
- ※2「インターネットやSNSなどで相談した」は、H29年調査から追加した選択肢である。

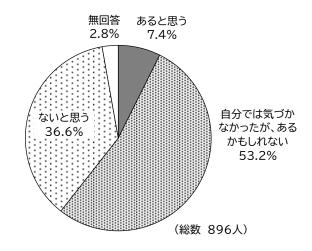
相談した」、「職場や学校に相談した」に選択肢が変わっている。

5. 他人の人権を侵害した経験

問5 あなたは、今までに他人の人権を侵害したことがありますか。(選択は1つ)

今までに他人の人権を侵害したことがあるかたずねたところ、「あると思う」は、7.4%と1割以下であったが、「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」が53.2%となっており、「あると思う」と合わせると6割を超える。また、「ないと思う」は、36.6%となっている。

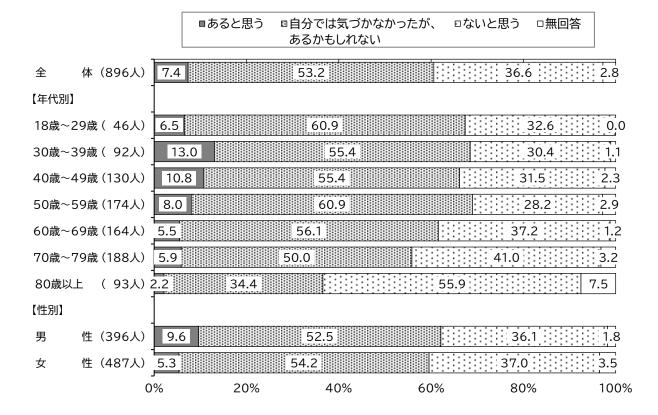
図 5-1 他人の人権を侵害した経験(選択は1つ)



【年代別・性別の状況】

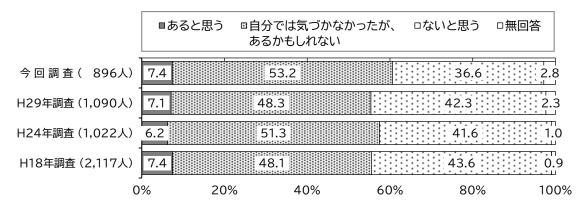
年代別でみると、60歳代以上で年代が高くなるほど、「ないと思う」が高くなる傾向にある。

図 5-2 他人の人権を侵害した経験(選択は1つ)≪年代別・性別≫



過去3回の調査と比較して大きな変化はみられない。

図 5-3 他人の人権を侵害した経験(選択は1つ)≪過去の調査との比較≫

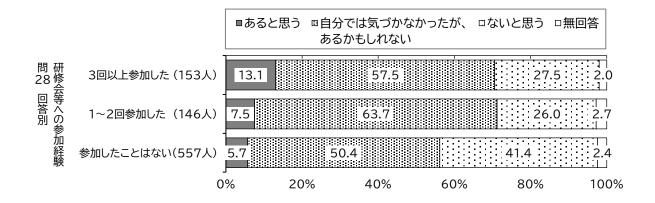


【他の設問との比較】

○研修会等への参加経験(問28)との比較

研修会等への参加経験が多い人ほど「あると思う」が高くなる傾向にある。

図 5-4 他人の人権を侵害した経験(選択は1つ)≪研修会等への参加経験(問28)との比較≫

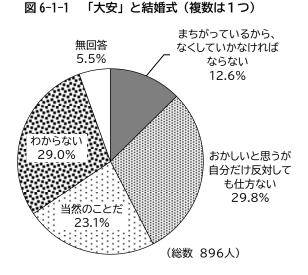


6. 慣習等についての考え方

6-1 「大安」と結婚式

問6-1 結婚式は、「大安」の日を選ぶことについて、あなたは、どのようにお考えですか。 (選択は1つ)

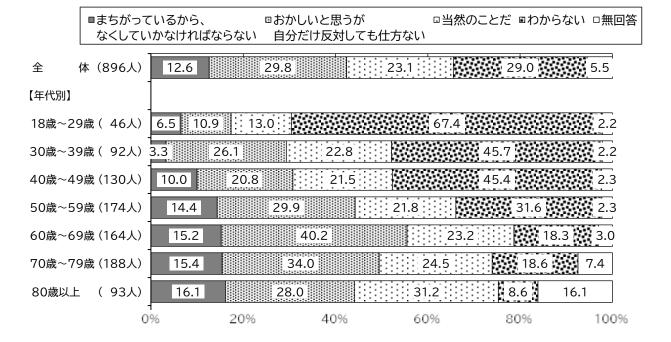
結婚式は、「大安」の日を選ぶことについての考え方をたずねたところ、「まちがっているからなくしていかなければならない」は、12.6%であった。「当然のことだ」は、23.1%となっており、「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方ない」の29.8%と合わせると、容認する考えの回答が5割を超える。また、「わからない」は、29.0%であった。

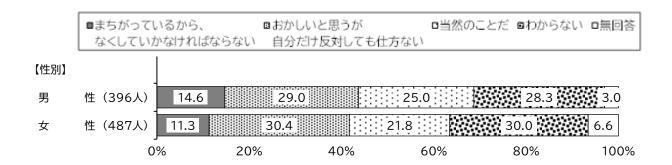


【年代別・性別の状況】

年代別でみると、「当然のことだ」は、80 歳以上で最も高いが、30 歳代以上で年代を問わず2割以上の回答がある。また、「わからない」は、年代が下がるほど高くなる傾向にあり、18 歳~29 歳では、67.4%と特に高くなっている。

図 6-1-2 「大安」と結婚式(選択は1つ) 《年代別・性別》

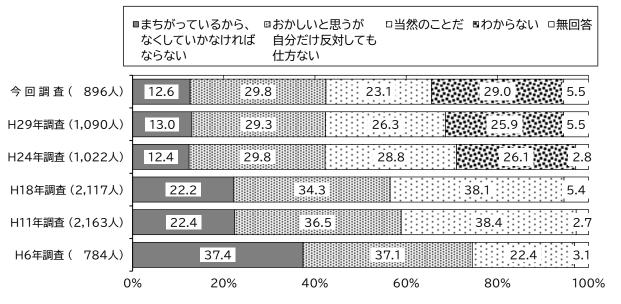




平成29年調査、平成24年調査と比較して大きな変化はみられないが、調査を重ねるごとに「当然のことだ」が低くなり、「わからない」が高くなる傾向にある。

なお、平成18年調査以前は、「わからない」の選択肢がなく単純比較はできない。

図 6-1-3 「大安」と結婚式(選択は1つ) ≪過去の調査との比較≫



※ H18年調査以前は、「わからない」の選択肢がない。

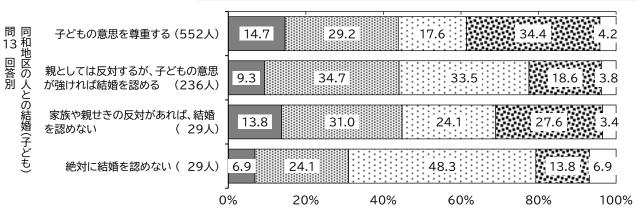
【他の設問との比較】

〇同和地区の人との結婚(子ども)(問13)との比較

同和地区の人と子どもの結婚について「子どもの意思を尊重する」と回答した人は、「当然のことだ」が 低くなっている。一方で、「わからない」が高くなっている。

図 6-1-4 「大安」と結婚式(選択は1つ)≪同和地区の人との結婚(子ども)(問13)との比較≫

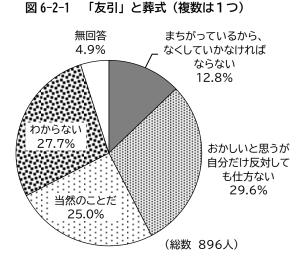
■まちがっているから、 □おかしいと思うが □当然のことだ ■わからない □無回答 なくしていかなければ 自分だけ反対しても ならない 仕方ない



6-2 「友引」と葬式

問6-2 葬式は、「友引」の日を避けることについて、あなたは、どのようにお考えですか。 (選択は1つ)

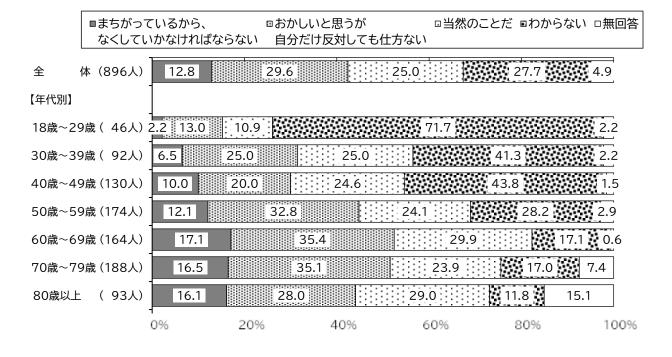
葬式は、「友引」の日を避けることについての考え方をたずねたところ、「まちがっているからなくしていかなければならない」は、12.8%であった。「当然のことだ」は、25.0%となっており、「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方ない」の 29.6%と合わせると、容認する考えの回答が5割を超える。また、「わからない」は、27.7%であった。

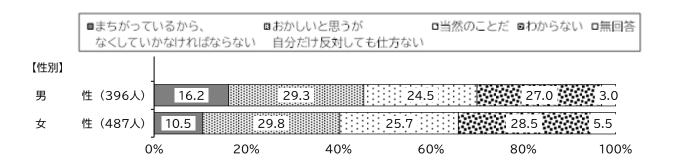


【年代別・性別の状況】

年代別でみると、「当然のことだ」は、80歳以上で最も高いが、30歳代以上で年代を問わず2割以上の回答がある。また、「わからない」は、40歳代以下で高く、18歳~29歳で71.7%と特に高くなっている。

図 6-2-2 「友引」と葬式(選択は1つ)《年代別・性別≫

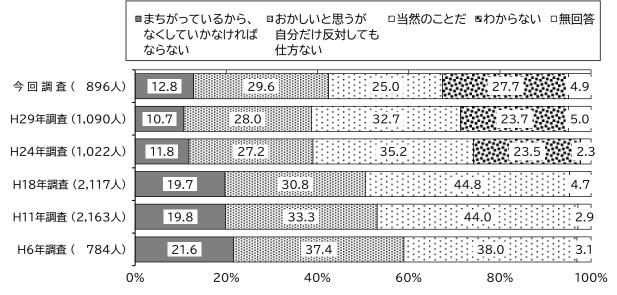




平成29年調査、平成24年調査と比較して大きな変化はみられないが、調査を重ねるごとに「わからない」が高くなる傾向にある。

平成18年調査以前は、「わからない」の選択肢がなく単純比較はできない。

図 6-2-3 「友引」と葬式(選択は1つ) ≪過去の調査との比較≫



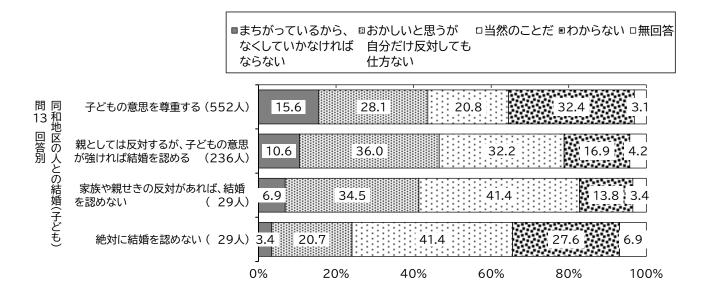
※ H18 年調査以前は、「わからない」の選択肢がない。

【他の設問との比較】

〇同和地区の人との結婚(子ども)(問13)との比較

同和地区の人と子どもの結婚について「子どもの意思を尊重する」と回答した人は、「まちがっているからなくしていかなければならない」が高く、「当然のことだ」が低くなっている。

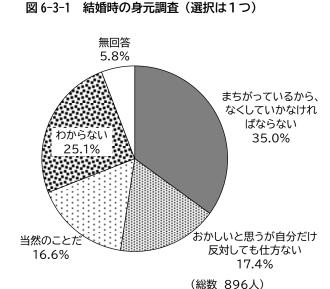
図 6-1-4 「友引」と葬式(選択は1つ) ≪同和地区の人との結婚(子ども)(問13)との比較≫



6-3 結婚時の身元調査

問6-3 結婚のとき、相手方の身元調査をすることについて、あなたは、どのようにお考えですか。 (選択は1つ)

結婚のとき、相手方の身元調査をすることについての考え方をたずねたところ、「まちがっているからなくしていかなければならない」は、35.0%であった。「当然のことだ」は、16.6%となっており、「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方ない」の17.4%と合わせると、容認する考えの回答は、34.0%であった。また、「わからない」は、25.1%であった。

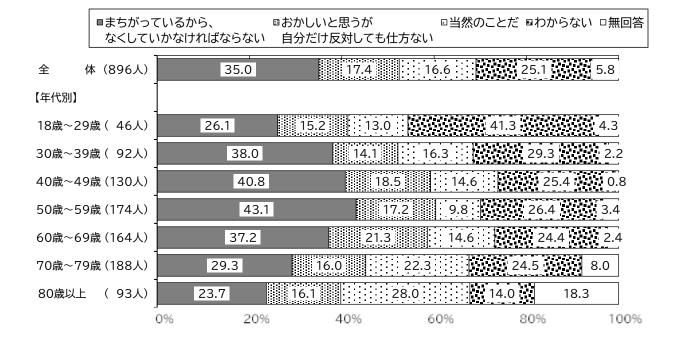


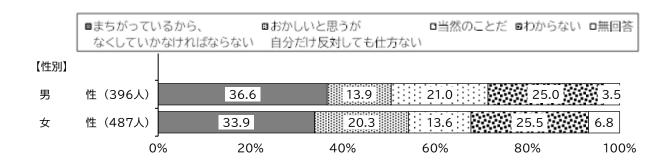
【年代別・性別の状況】

年代別でみると、「まちがっているからなくしていかなければならない」は、50 歳代が最も高く、50 歳代を中心に、年代が上下するほど低くなる傾向にある。「当然のことだ」は、80 歳代以上が最も高く、50 歳代が最も低くなっている。また、「わからない」は、18 歳~29 歳で41.3%と特に高くなっている。

性別でみると、「当然のことだ」で男性が高くなっている。

図 6-3-2 結婚時の身元調査(選択は1つ)≪年代別・性別≫

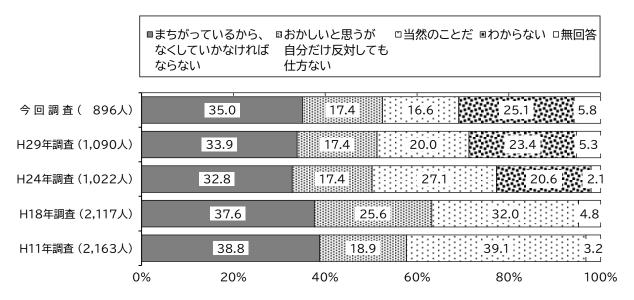




平成29年調査、平成24年調査と比較すると、調査を重ねるごとに「当然のことだ」が低くなり、「わからない」が高くなる傾向にある。

平成18年調査以前は、「わからない」の選択肢がなく単純比較はできない。

図 6-3-3 結婚時の身元調査(選択は1つ)≪過去の調査との比較≫



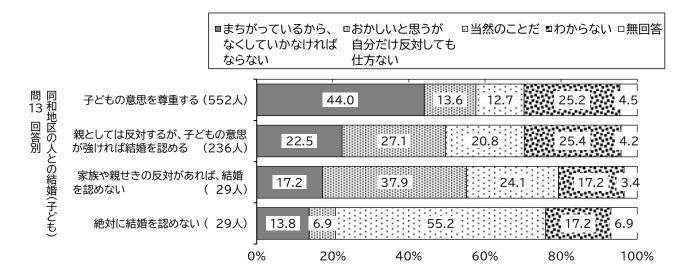
※ H18年調査以前は、「わからない」の選択肢がない。

【他の設問との比較】

〇同和地区の人との結婚(子ども)(問13)との比較

同和地区の人と子どもの結婚について「子どもの意思を尊重する」と回答した人は、「まちがっているからなくしていかなければならない」が高く、「当然のことだ」が低くなっている。

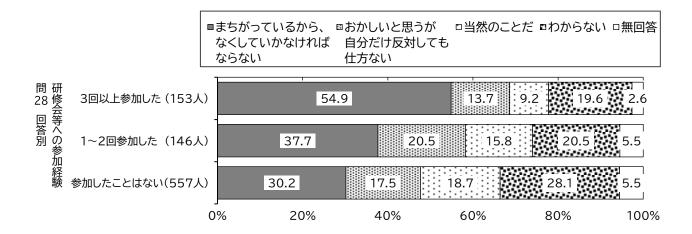
図 6-3-4 結婚時の身元調査(選択は1つ)≪同和地区の人との結婚(子ども)(問13)との比較≫



〇研修会等への参加経験(問28)との比較

研修会等への参加経験が多い人ほど、「まちがっているからなくしていかなければならない」が高くなり、 「当然のことだ」が低くなる傾向にある。

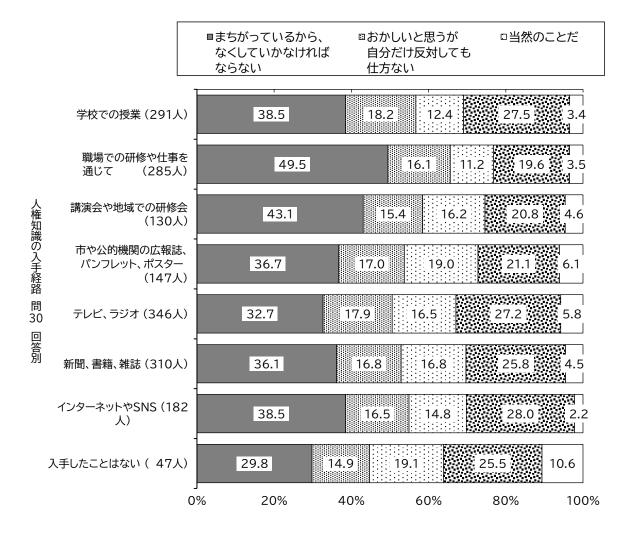
図 6-3-5 結婚時の身元調査(選択は1つ)≪研修会等への参加経験(問 28)との比較≫



〇人権知識の入手経路(問30)との比較

人権に関する知識の入手経路を「職場での研修や仕事を通じて」、「講演会や地域での研修会」と回答した人は、「まちがっているからなくしていかなければならない」が高くなっている。

図 6-3-6 結婚時の身元調査(選択は1つ)≪人権知識の入手経路(問 30)との比較≫

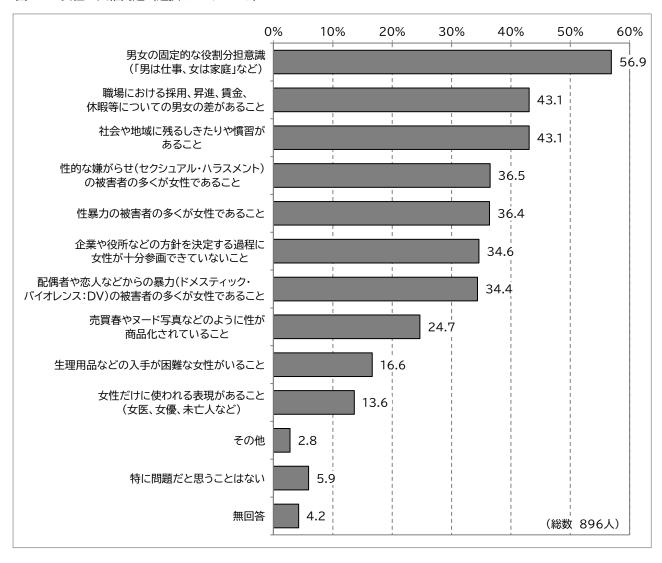


7. 女性の人権問題

問7 女性の人権やジェンダー平等に関することで、特にどのようなことが問題だと思いますか。 (選択はいくつでも)

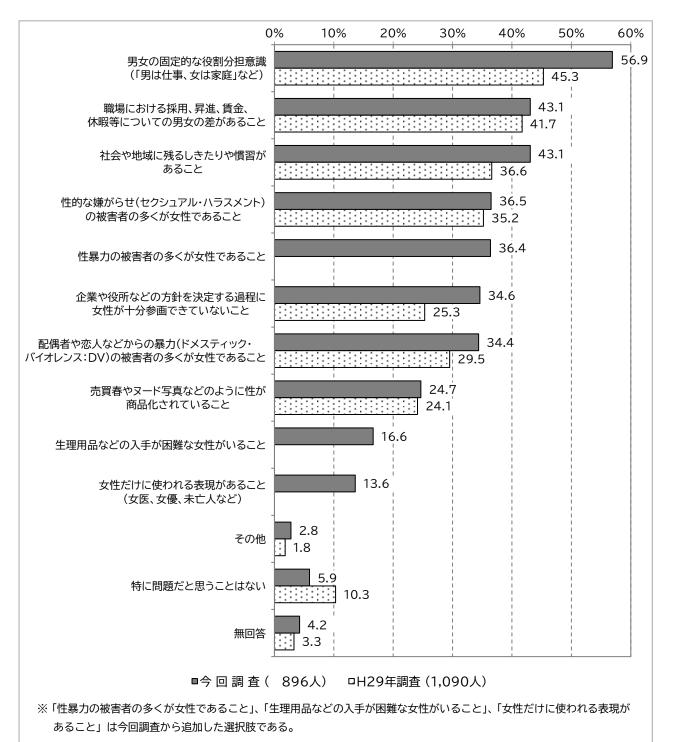
女性の人権やジェンダー平等について、特にどのようなことが問題だと思うかたずねたところ、「男女の 固定的な役割分担意識」が 56.9%と最も高く、以下、「職場における採用、昇進、賃金、休暇等について男 女の差があること」、「社会や地域に残るしきたりや慣習があること」が同率で 43.1%となっている。

図 7-1 女性の人権問題(選択はいくつでも)



平成29年調査と比較すると、「男女の固定的な役割分担意識」、「企業や役所などの方針を決定する過程 に女性が十分参画できていないこと」が高くなり、「特に問題だと思うことはない」が低くなっている。

図 7-2 女性の人権問題(選択はいくつでも)≪過去の調査との比較≫

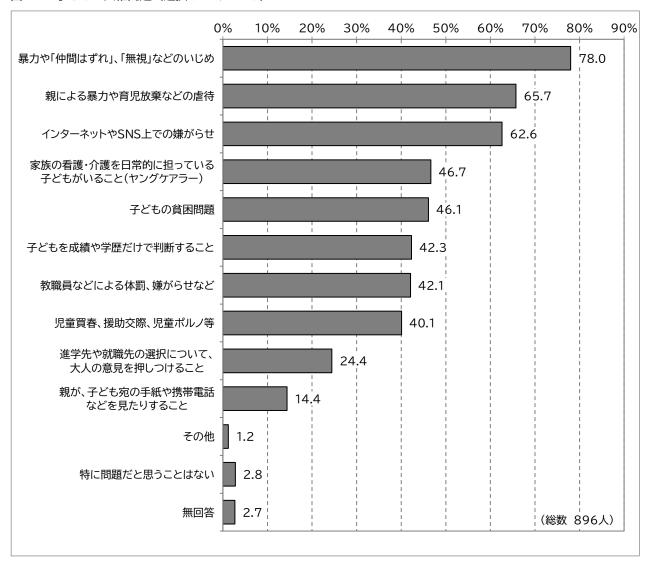


8. 子どもの人権問題

問8 子どもの人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。(選択はいくつでも)

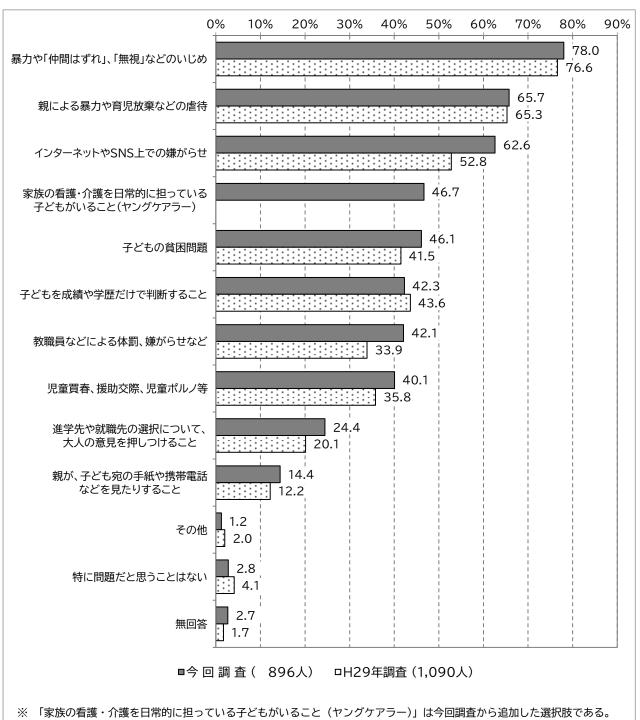
子どもの人権について、特にどのようなことが問題だと思うかたずねたところ、「暴力や『仲間はずれ』、『無視』などのいじめ」78.0%と最も高く、以下、「親による暴力や育児放棄などの虐待」65.7%、「インターネットやSNS上での嫌がらせ」62.6%、「家族の看護・介護を日常的に担っている子どもがいること」46.7%、「子どもの貧困問題」46.1%となっている。

図8-1 子どもの人権問題(選択はいくつでも)



平成29年調査と比較して大きな変化はみられない。

図8-2 子どもの人権問題(選択はいくつでも)《過去の調査との比較》

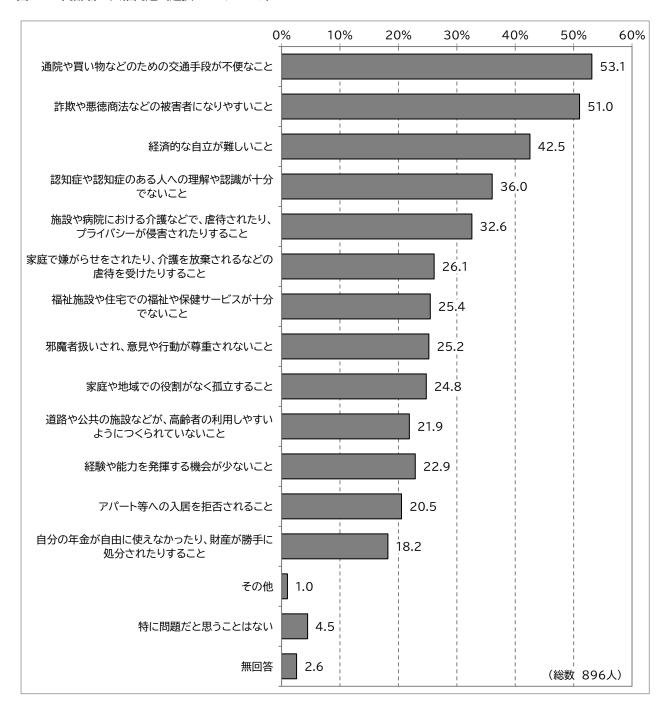


9. 高齢者の人権問題

問9 高齢者の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。(選択はいくつでも)

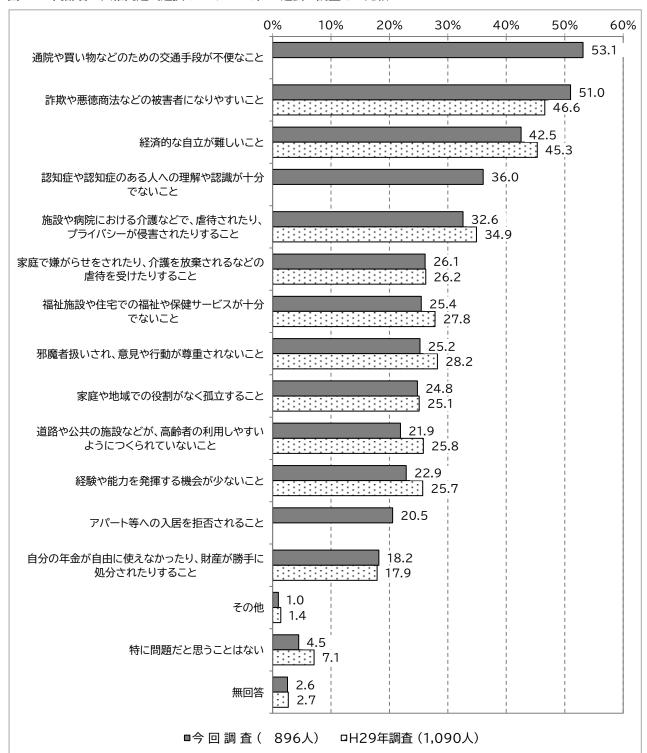
高齢者の人権について、特にどのようなことが問題だと思うかたずねたところ、「通院や買い物などのための交通手段が不便なこと」53.1%と最も高く、以下、「詐欺や悪徳商法などの被害者になりやすいこと」51.0%、「経済的な自立が難しいこと」42.5%、「認知症や認知症のある人への理解や認識が十分でないこと」36.0%となっている。

図 9-1 高齢者の人権問題(選択はいくつでも)



平成29年調査と比較して大きな変化は見られないが、今回調査から追加した「通院や買い物などのための交通手段が不便なこと」に最も高い回答があった。

図 9-2 高齢者の人権問題(選択はいくつでも)≪過去の調査との比較≫



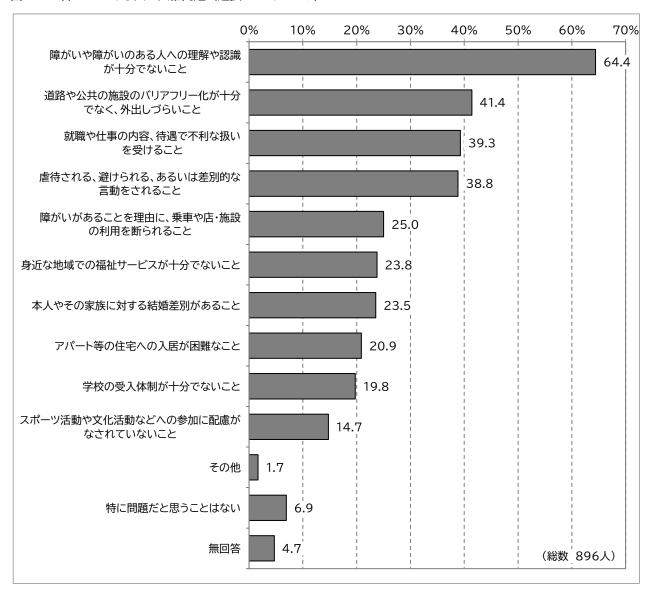
※ 「通院や買い物などのための交通手段が不便なこと」、「認知症や認知症のある人への理解や認識が十分でないこと」、「アパート 等への入居を拒否されること」は今回調査から追加した選択肢である。

10. 障がいのある人の人権問題

問10 障がいのある人の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。 (選択はいくつでも)

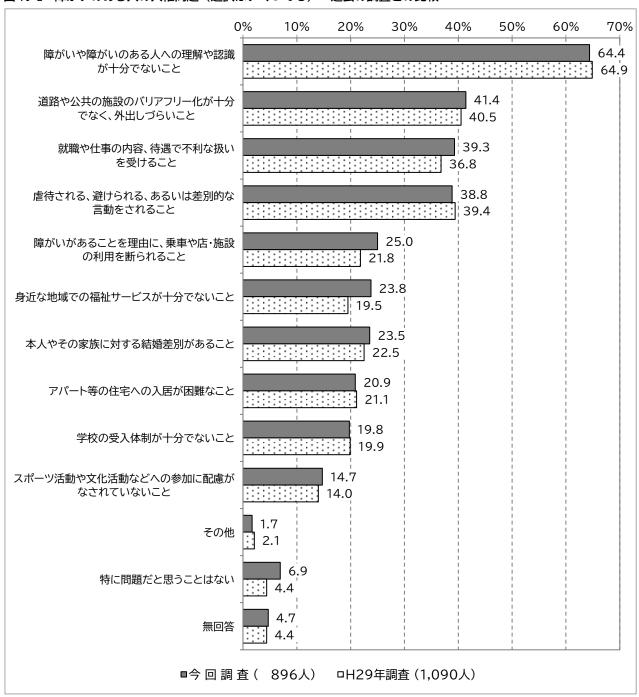
障がいのある人の人権について、特にどのようなことが問題だと思うかたずねたところ、「障がいや障がいのある人への理解や認識が十分でないこと」が 64.4%と最も高く、以下、「道路や公共の施設のバリアフリー化が十分でなく、外出しづらいこと」 41.4%、「就職や仕事の内容、待遇で不利な扱いを受けること」 39.3%、「虐待される、避けられる、あるいは差別的な言動をされること」 38.8%となっている。

図 10-1 障がいのある人の人権問題(選択はいくつでも)



平成29年調査と比較して大きな変化はみられない。

図 10-2 障がいのある人の人権問題(選択はいくつでも) ≪過去の調査との比較≫

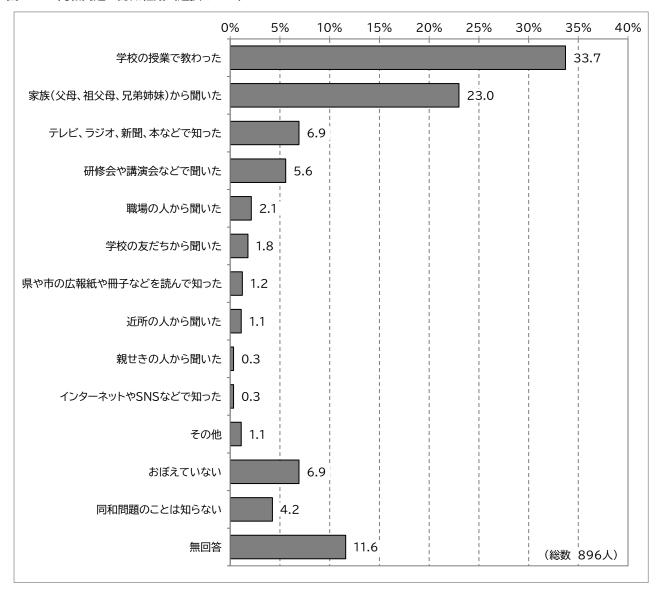


11. 同和問題の認知経路

問11 同和問題についてはじめて知ったのは、どのようなきっかけでしたか。(選択は1つ)

同和問題についてはじめて知ったきっかけをたずねたところ、「学校の授業で教わった」が 33.7%と最も高く、以下、「家族(父母、祖父母、兄弟姉妹)から聞いた」23.0%、「テレビ、ラジオ、新聞、本などで知った」6.9%、「研修会や講演会などで聞いた」5.6%となっている。

図 11-1 同和問題の認知経路(選択は1つ)



【年代別・性別の状況】

選択肢を「身近な人間関係」、「学校」、「公的媒体」、「その他」の4グループに分け比較を行った。(グループ分けは表 11-1 のとおり)

年代別でみると、年代が下がるほど「学校」が高く、年代が上がるほど「身近な人間関係」が高くなる傾向にある。

図 11-2 同和問題の認知経路(選択は1つ)≪年代別・性別≫

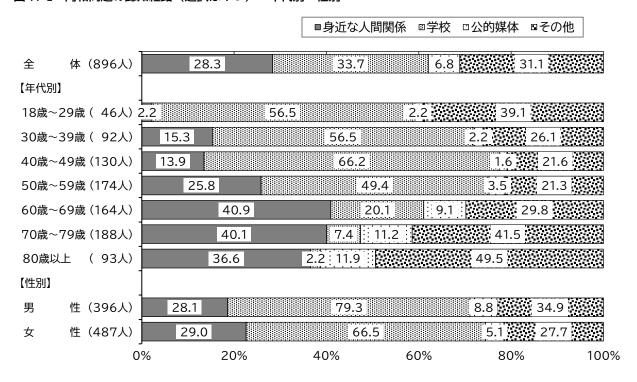


表 11-1 同和問題の認知経路についての選択肢のグループ分け表

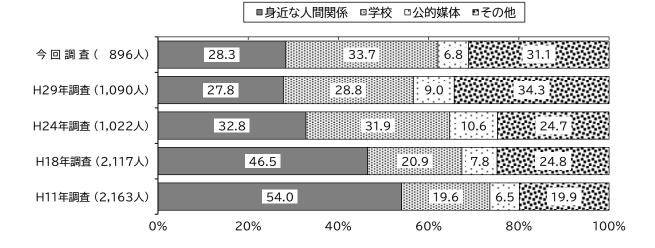
※選択肢を下記のとおりグループ化して集計・比較を行った。

今回調査・H29年調査	H24年調査	H18年調査·H11年調査	グループ化区分
家族(父母、祖父母、兄弟姉妹)から	家族(父母、祖父母、兄弟姉妹)から	祖父母から	身近な人間関係
		父母から	身近な人間関係
		兄弟姉妹から	身近な人間関係
親せきの人から	親せきの人から	親せきの人から	身近な人間関係
近所の人から	近所の人から	近所の人から	身近な人間関係
学校の友だちから	学校の友だちから	学校の友だちから	身近な人間関係
職場の人から	職場の人から	職場の人から	身近な人間関係
学校の授業で	学校の授業で	学校の授業で	学校
テレビ、ラジオ、新聞、本など	テレビ、ラジオ、新聞、本、イン	テレビ、ラジオ、新聞、本など	その他
インターネットやSNSなど	ターネットなど		その他
研修会や講演会など	研修会や講演会など	研修会や講演会など	公的媒体
県や市の広報紙や冊子など	県や市の広報紙や冊子など	県や市の広報紙や冊子など	公的媒体
その他	その他	その他	その他
おぼえていない	おぼえていない	おぼえていない	その他
同和問題のことは知らない	同和問題のことは知らない	同和問題のことは知らない	その他
無回答	無回答	無回答	その他

選択肢を「身近な人間関係」、「学校」、「公的媒体」、「その他」の4グループに分け比較を行った。(グループ分けは、P38表11-1のとおり)

「身近な人間関係」については、平成29年調査と比較して大きな変化はみられないが、平成11年調査から平成29年調査までは、調査を重ねるごとに低くなる傾向がみられる。「学校」については、調査を重ねるごとに高くなる傾向がみられる。

図 11-3 同和問題の認知経路(選択はいくつでも) ≪過去の調査との比較≫

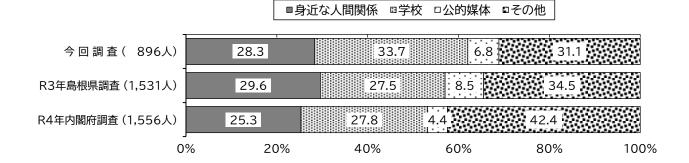


【島根県調査・内閣府調査との比較】

選択肢を「身近な人間関係」、「学校」、「公的媒体」、「その他」の4グループに分け比較を行った。(グループ分けは、P38表11-1のとおり)

島根県調査、内閣府調査と比較すると、「学校」が高くなっている。

図 11-4 同和問題の認知経路(選択はいくつでも)《島根県調査・内閣府調査との比較》



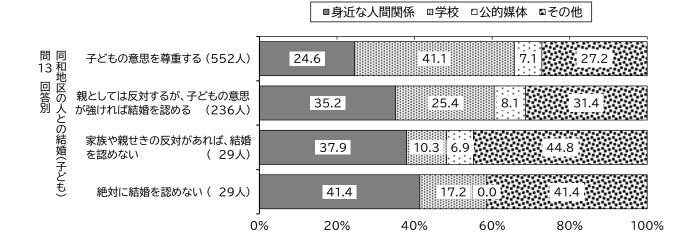
【他の設問との比較】

〇同和地区の人との結婚(子ども)(問13)との比較

選択肢を「身近な人間関係」、「学校」、「公的媒体」、「その他」の4グループに分け比較を行った。(グループ分けは、P38表11-1のとおり)

同和地区の人と子どもの結婚について「子どもの意思を尊重する」と回答した人は、「身近な人間関係」 が低く、「学校」が高くなっている。

図 11-5 同和問題の認知経路(選択は1つ)≪同和地区の人との結婚(子ども)(問 13)との比較≫

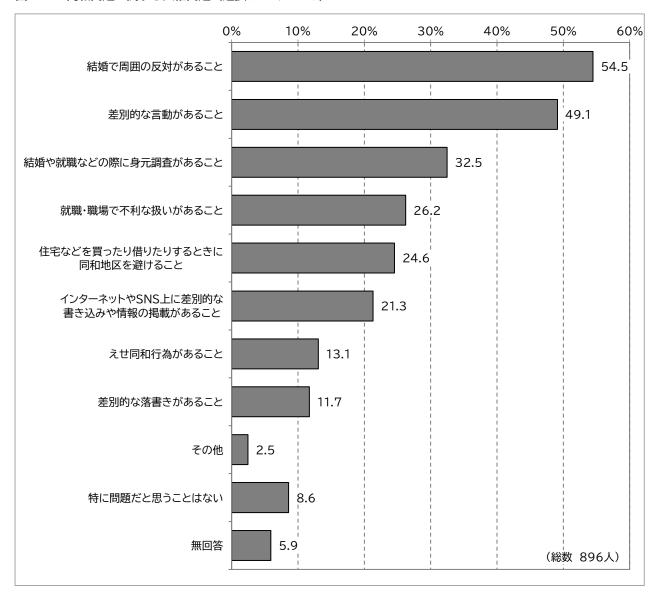


12. 同和問題に関する人権問題

問12 同和問題に関して、特にどのようなことが人権上の問題だと思いますか。(選択はいくつでも)

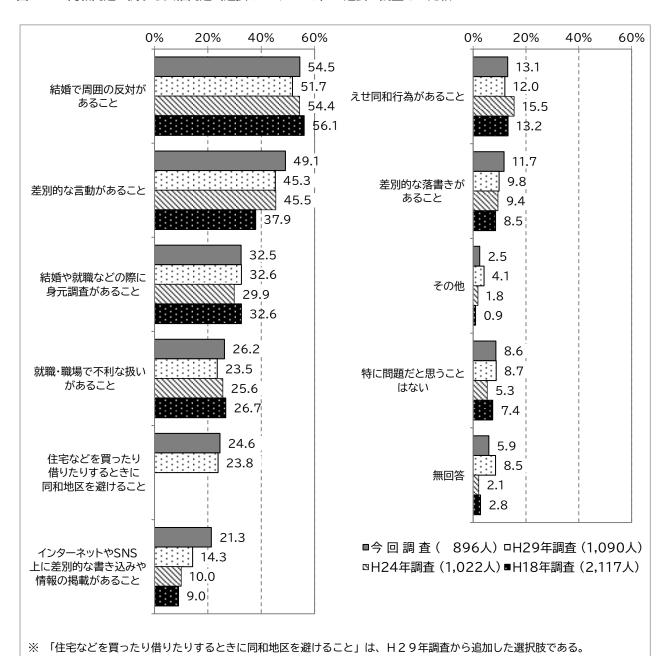
同和問題に関して、特にどのようなことが人権上の問題だと思うかたずねたところ、「結婚で周囲の反対があること」が 54.5%と最も高く、以下、「差別的な言動があること」 49.1%、「結婚や就職などの際に身元調査があること」 32.5%となっている。

図 12-1 同和問題に関する人権問題(選択はいくつでも)



過去3回の調査と比較すると、調査を重ねるごとに「インターネットやSNS上に差別的な書き込みや 情報の掲載があること」が高くなる傾向にある。

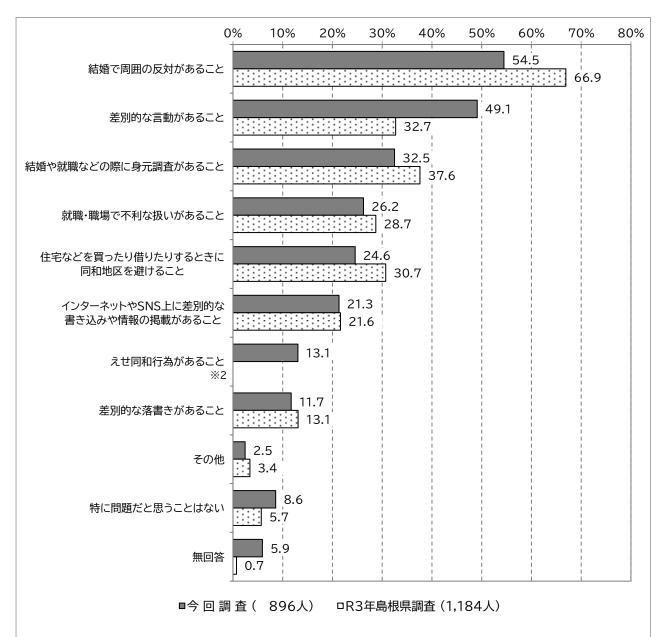
図 12-2 同和問題に関する人権問題(選択はいくつでも)≪過去の調査との比較≫



【島根県調査との比較】

島根県調査と比較すると、「結婚で周囲の反対があること」などが低く、「差別的な言動があること」が 高くなっている。

図 12-3 同和問題に関する人権問題(選択はいくつでも)≪島根県調査との比較≫



※1 島根県調査では、同和問題の認知経路の問に対し「同和問題のことは知らない」と回答した人以外に質問を行っている。

※2 島根県調査では、「えせ同和行為があること」の選択肢はない。

(総数 896人)

13. 同和地区の人との結婚(子ども)

問13 仮に、あなたのお子さんが同和地区出身の人と知り合い、結婚しようとしたとき、あなたは どうしますか。(選択は1つ)

あなたのお子さんが同和地区出身の人と知り合い、結婚しようとしたときどうするかたずねたところ、「子どもの意思を尊重する」が 61.6% と最も高く 6 割を超えている。以下、「親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める」26.3%、「家族や親せきの反対があれば、結婚を認めない」 3.2%となっている。

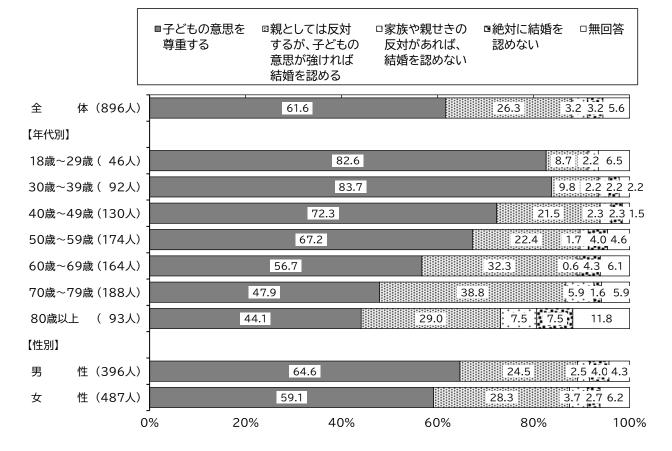
絶対に結婚を認めない 3.2% 家族や親せきの反対があれば、結婚を認めない 3.2% 親としては反対 するが、子ども の意思が強けれ ば結婚を認める 26.3%

図 13-1 同和地区の人との結婚(子ども)(選択は1つ)

【年代別・性別の状況】

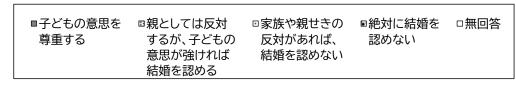
年代別でみると、年代が下がるほど「子どもの意思を尊重する」が高くなる傾向にある。

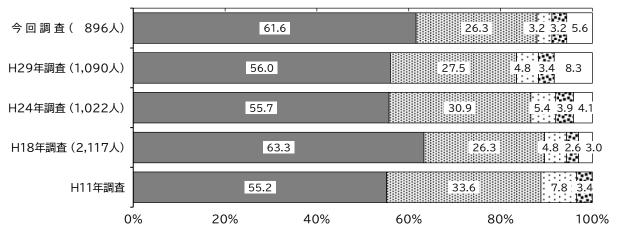
図 13-2 同和地区の人との結婚(子ども)(選択は1つ)≪年代別・性別≫



過去4回の調査と比較して大きな変化はみられない。

図 13-3 同和地区の人との結婚(子ども)(選択は1つ)≪過去の調査との比較≫



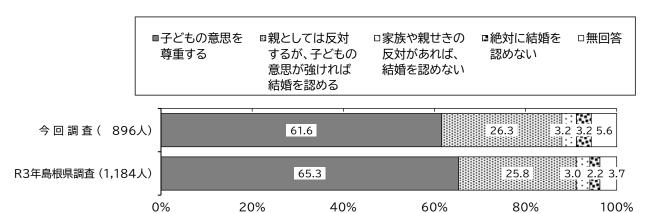


※ H11年調査では、既婚者のみに質問を行っている。

【島根県調査との比較】

島根県調査とほぼ同様の傾向である。

図 13-4 同和地区の人との結婚 (子ども) (選択は1つ) ≪島根県調査との比較≫



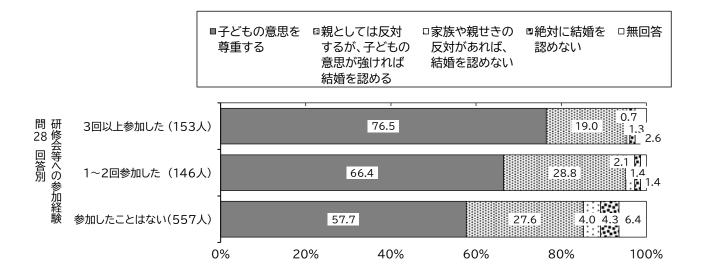
※ 島根県調査では、同和問題の認知経路の問に対し「同和問題のことは知らない」と回答した人以外に質問を行っている。

【他の設問との比較】

○研修会等への参加経験(問28)との比較

研修会等への参加経験が多い人ほど、「子どもの意思を尊重する」が高くなる傾向にある。

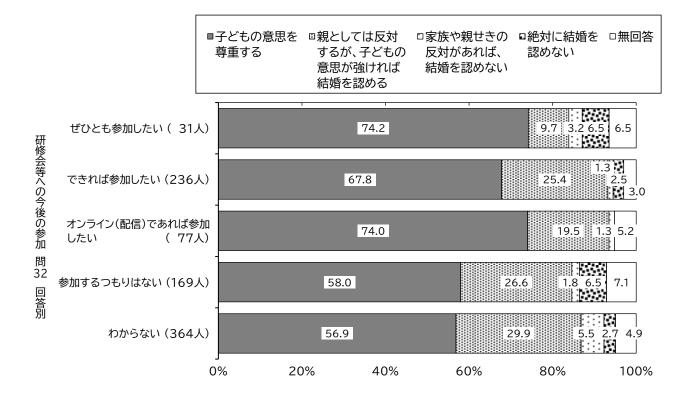
図 13-5 同和地区の人との結婚 (子ども) (選択は1つ) 《研修会等への参加経験(問 28) との比較≫



〇研修会等への今後の参加(問32)との比較

研修会等への今後の参加意思を示した人は、「子どもの意思を尊重する」が高くなっている。

図13-6 同和地区の人との結婚(子ども)(選択は1つ)《研修会等への今後の参加(問32)との比較》

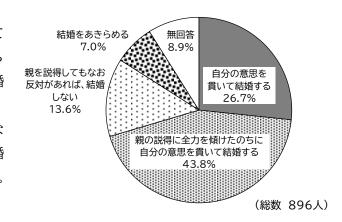


14. 同和地区の人との結婚(自分)

問14 仮に、あなたが同和地区出身の人と知り合い、結婚しようとしたとき、親から強い反対を受けた場合、あなたはどうしますか。(選択は1つ)

自身が同和地区出身の人と知り合い、結婚しようとしたとき、親から強い反対を受けた場合、どうするかたずねたところ、「自分の意思を貫いて結婚する」26.7%、「親の説得に全力を傾けたのちに自分の意思を貫いて結婚する」43.8%で、「結婚する」方向の回答が合計で70.5%となっている。また、「親を説得してもなお反対があれば結婚しない」13.6%、「結婚をあきらめる」7.0%で、「結婚しない」方向の回答が合計で20.6%となっている。

図 14-1 同和地区の人との結婚(自分)(選択は1つ)

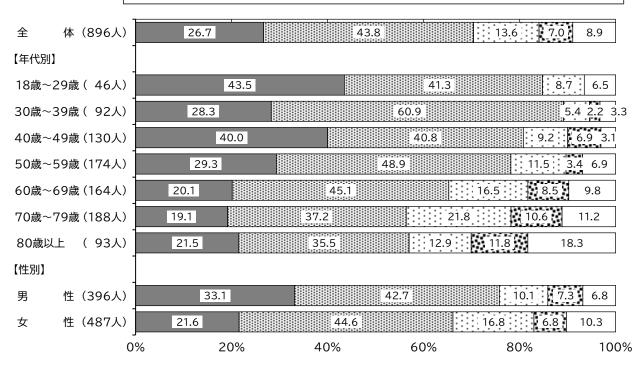


【年代別・性別の状況】

性別でみると、「自分の意思を貫いて結婚する」で男性が高くなっている。

図 14-2 同和地区の人との結婚(自分)(選択は1つ)≪年代別・性別≫

■自分の意思を □親の説得に全力を □親を説得しても □結婚を □無回答 貫いて結婚する 傾けたのちに自分の なお反対があれば、 あきらめる 意思を貫いて結婚する 結婚しない

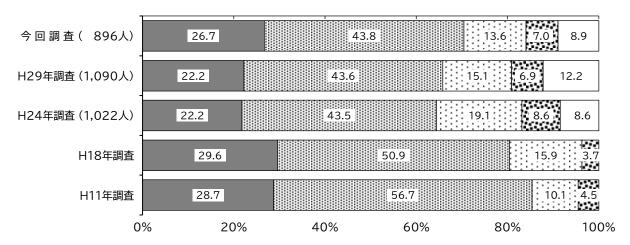


過去2回の調査と比較して、大きな変化はみられない。

なお、平成18年以前の調査では、質問の表現が一部異なっており、単純比較はできない。

図 14-3 同和地区の人との結婚(自分)(選択は1つ)≪過去の調査との比較≫

■自分の意思を □親の説得に全力を □親を説得しても □結婚を □無回答 貫いて結婚する 傾けたのちに自分の なお反対があれば、 あきらめる 意思を貫いて結婚する 結婚しない



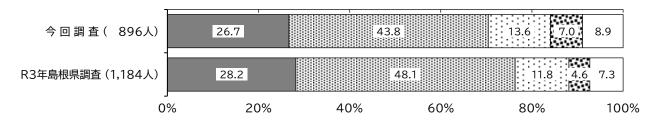
[※] H11年調査、H18年調査では、未婚者のみに質問を行っている。また、「結婚をあきらめる」の選択肢が「絶対に結婚しない」となっている。

【島根県調査との比較】

島根県調査と比較すると、「結婚する」方向の回答が低くなっている。

図 14-4 同和地区の人との結婚(自分)(選択は1つ)≪島根県調査との比較≫

■自分の意思を □親の説得に全力を □親を説得しても □結婚を □無回答 貫いて結婚する 傾けたのちに自分の なお反対があれば、 あきらめる 意思を貫いて結婚する 結婚しない



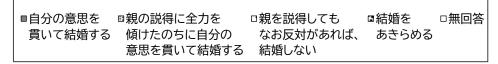
[※] 島根県調査では、同和問題の認知経路の問に対し「同和問題のことは知らない」と回答した人以外に質問を行っている。また、「親を説得してもなお反対があれば、結婚しない」の選択肢が「家族の者や親せきの反対があれば、結婚しない」となっている。

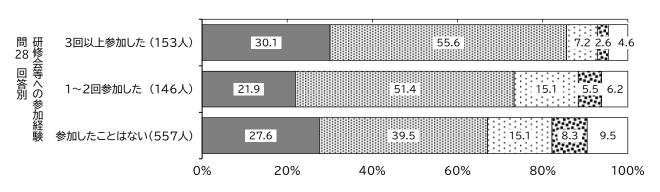
【他の設問との比較】

○研修会等への参加経験(問28)との比較

研修会等への参加経験が多い人ほど、「結婚する」方向の回答が高くなる傾向にある。

図 14-5 同和地区の人との結婚(自分)(選択は1つ)≪研修会等への参加経験(問 28)との比較≫

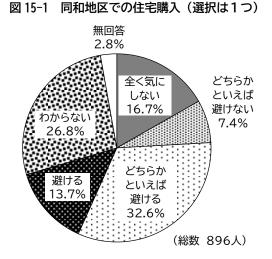




15. 同和地区での住宅購入

問15 仮に、あなたが住宅を購入しようとした際に、価格や立地条件などが希望に合っていても、その物件が同和地区にあるとわかったら、どうしますか。(選択は1つ)

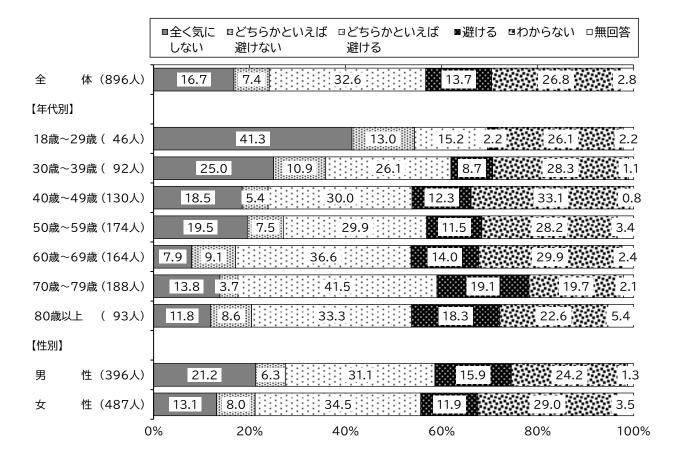
自身が住宅を購入しようとした際に、価格や立地条件などが希望に合っていても、その物件が同和地区にあるとわかったら、どうするかたずねたところ、「全く気にしない」16.7%、「どちらかといけば避けない」7.4%で、「購入を避けない」方向の回答が合計で24.1%となっている。また、「どちらかといえば避ける」32.6%、「避ける」13.7%で、「購入を避ける」方向の回答が合計で46.3%となっている。「わからない」は26.8%であった。



【年代別・性別の状況】

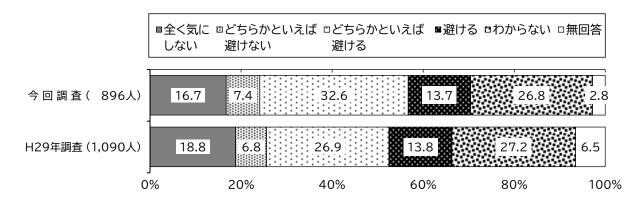
年代別でみると、「全く気にしない」が 18 歳 \sim 29 歳で 41.3% と高く、60 歳代以上で低くなっている。 性別でみると、男性で「全く気にしない」が高くなっている。

図 15-2 同和地区での住宅購入(選択は1つ)≪年代別・性別≫



平成29年調査と比較すると、「どちらかといえば避ける」がやや高くなっている。

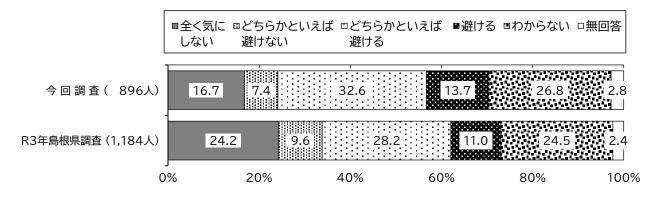
図 15-3 同和地区での住宅購入(選択は1つ)≪過去の調査との比較≫



【島根県調査との比較】

島根県調査と比較すると、「購入を避けない」方向の回答は、島根県調査より低く、「購入を避ける」方向の回答は島根県調査より高くなっている。

図 15-4 同和地区での住宅購入(選択は1つ) ≪島根県調査との比較≫



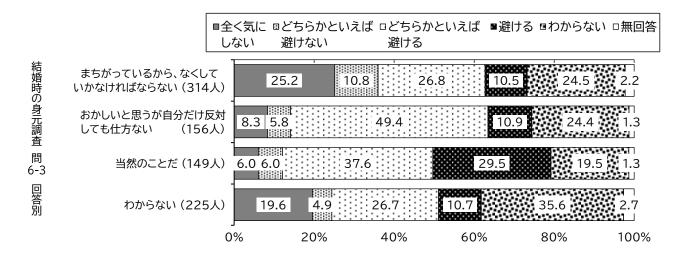
※ 島根県調査では、同和問題の認知経路の問に対し「同和問題のことは知らない」と回答した人以外に質問を行っている。

【他の設問との比較】

〇結婚時の身元調査(問6-3)との比較

結婚時の身元調査を容認する意見の人ほど「購入を避ける」方向の回答が高く、「購入を避けない」方向の回答が低くなる傾向にある。

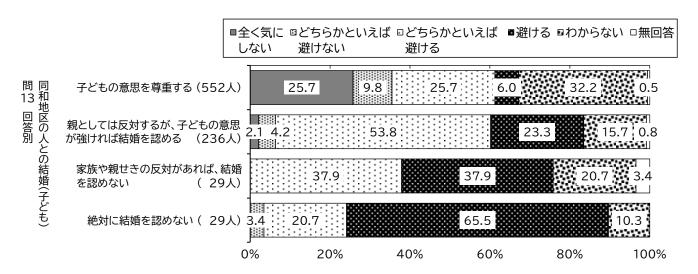
図 15-5 同和地区での住宅購入(選択は1つ)《結婚時の身元調査(問 6-3)との比較》



〇同和地区の人との結婚(子ども)(問13)との比較

同和地区の人と子どもの結婚について「子どもの意思を尊重する」と回答した人は、「購入を避ける」方向の回答が低く、「購入を避けない」方向の回答が高くなっている。

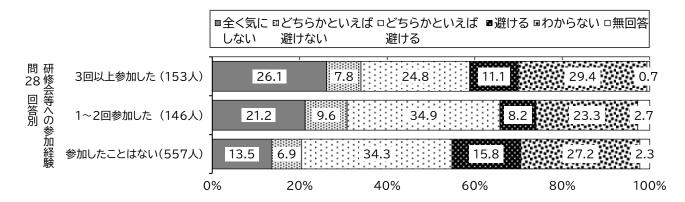
図 15-6 同和地区での住宅購入(選択は1つ)≪同和地区の人との結婚(子ども)(問 13)との比較≫



○研修会等への参加経験(問28)との比較

研修会等への参加経験が多い人ほど、「購入を避ける」方向の回答が低く、「全く気にしない」が高くなる傾向にある。

図 15-7 同和地区での住宅購入(選択は1つ) 《研修会等への参加経験(問 28) との比較》

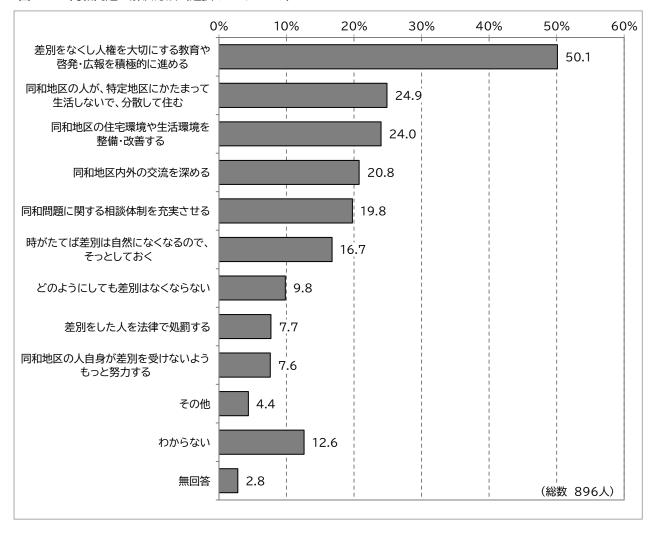


16. 同和問題の解決方法

問16 同和問題を解決するためには、どうしたらよいと思いますか。(選択はいくつでも)

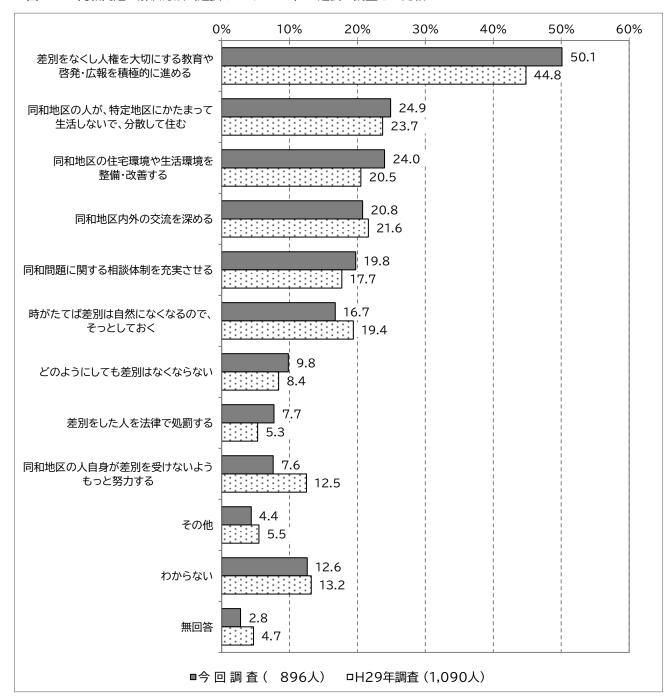
同和問題を解決するためには、どうしたらよいと思うかをたずねたところ、「差別をなくし人権を大切にする教育や啓発・広報を積極的に進める」が50.1%と最も高く、以下、「同和地区の人が、特定地区にかたまって生活しないで、分散して住む」24.9%、「同和地区の住宅環境や生活環境を整備・改善する」24.0%、「同和地区内外の交流を深める」20.8%、「同和問題に関する相談体制を充実させる」19.8%となっている。

図 16-1 同和問題の解決方法(選択はいくつでも)



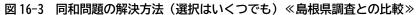
平成29年調査と比較すると、「差別をなくし人権を大切にする教育や啓発・広報を積極的に進める」が 高くなり、「同和地区の人自身が差別を受けないようもっと努力する」が低くなっている。

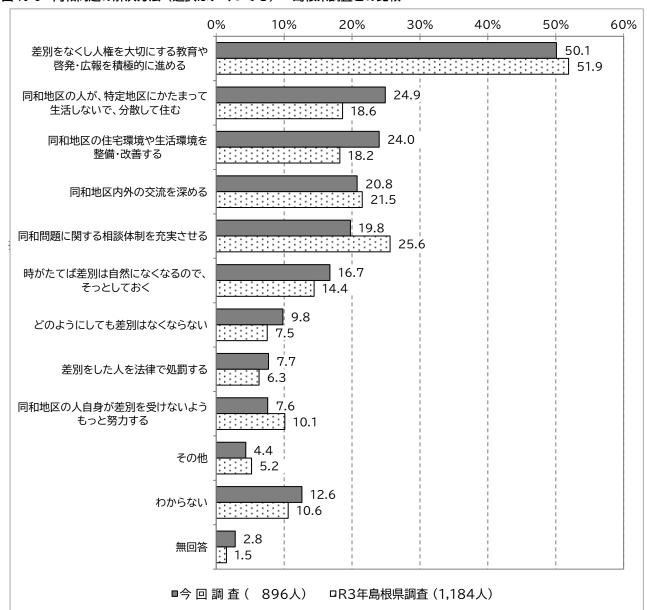
図 16-2 同和問題の解決方法(選択はいくつでも)≪過去の調査との比較≫



【島根県調査との比較】

島根県調査と比較すると、今回調査、島根県調査ともに「差別をなくし人権を大切にする教育や啓発・ 広報を積極的に進める」が最も高く、5割を超える回答があった。一方で、「同和地区の人が、特定地区に かたまって生活しないで、分散して住む」、「同和地区の住宅環境や生活環境を整備・改善する」は、今回 調査が高く、「同和問題に関する相談体制を充実させる」は、島根県調査が高くなっている。





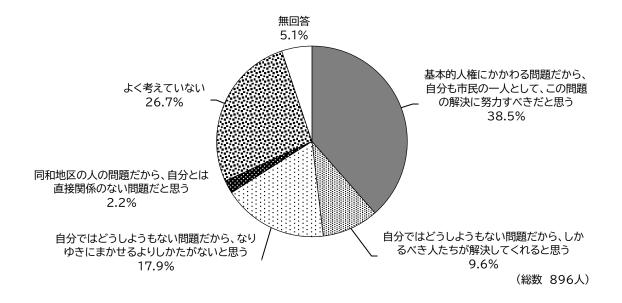
※ 島根県調査では、同和問題の認知経路の間に対し「同和問題のことは知らない」と回答した人以外に質問を行っている。

17. 同和問題解決とのかかわり

問17 同和問題の解決と自分自身とのかかわりについて、どのようにお考えですか。 (選択は1つ)

同和問題の解決と自分自身とのかかわりについてたずねたところ、同和問題解決に積極的な方向の回答である「基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」が38.5%となっている。一方、「自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがない」17.9%、「自分ではどうしようもない問題だから、しかるべき人たちが解決してくれると思う」9.6%、「同和地区の人の問題だから、自分とは直接関係のない問題だと思う」2.2%で、同和問題解決に消極的な方向の回答が合計で29.7%となっている。また、「よく考えていない」が26.7%となっている。

図 17-1 同和問題解決とのかかわり(選択は1つ)

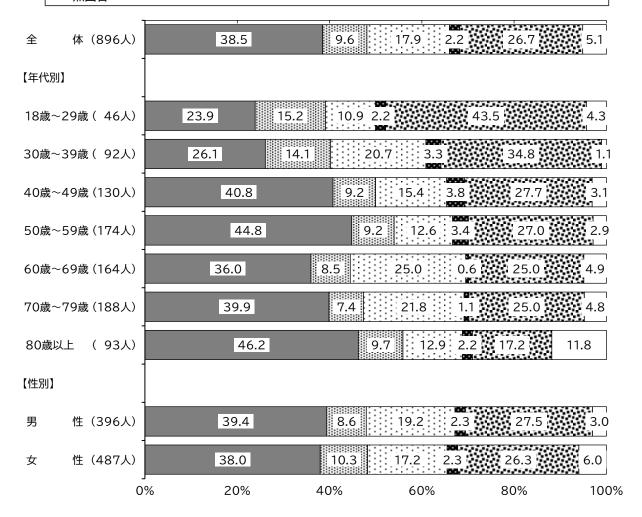


【年代別・性別の状況】

年代別でみると、「基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力 すべきだと思う」は、30歳代以下で低くなっている。また、「よく考えていない」は、年代が低くなるほど 高くなる傾向にある。

図 17-2 同和問題の解決とのかかわり(選択は1つ)≪年代別・性別≫

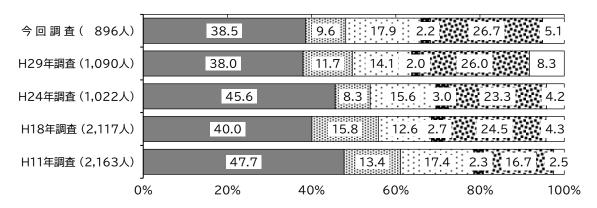
- ■基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う
- ▣自分ではどうしようもない問題だから、しかるべき人たちが解決してくれると思う
- □自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う
- ■同和地区の人の問題だから、自分とは直接関係のない問題だと思う
- ■よく考えていない
- □無回答



過去4回の調査と比較すると、一定の傾向は読み取りにくいが、「よく考えていない」は、これまでの調査の中で最も高くなっている。

図 17-3 同和問題の解決とのかかわり(選択は1つ)≪過去の調査との比較≫

- ■基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う
- □自分ではどうしようもない問題だから、しかるべき人たちが解決してくれると思う
- ロ自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う
- ■同和地区の人の問題だから、自分とは直接関係のない問題だと思う
- ■よく考えていない
- □無回答

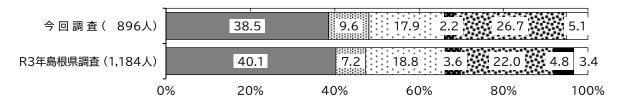


【島根県調査との比較】

島根県調査と比較すると、ほぼ同様の傾向であるが、「よく考えていない」が島根県調査よりやや高くなっている。

図 17-4 同和問題の解決とのかかわり(選択は1つ)≪島根県調査との比較≫

- ■基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う
- □自分ではどうしようもない問題だから、しかるべき人たちが解決してくれると思う
- ロ自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う
- ■同和地区の人の問題だから、自分とは直接関係のない問題だと思う
- ■よく考えていない
- ■同和問題は解決している
- □無回答



- ※1 島根県調査では、同和問題の認知経路の問に対し「同和問題のことは知らない」と回答した人以外に質問を行っている。
- ※2 島根県調査では、「同和問題は解決している」の選択肢がある。

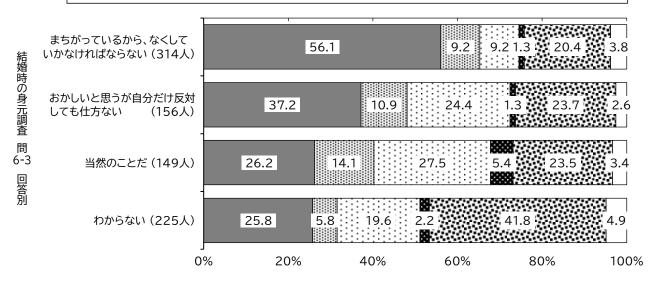
【他の設問との比較】

〇結婚時の身元調査(問6-3)との比較

結婚時の身元調査を容認しない意見の人ほど「基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」が高く、「よく考えていない」が低くなっている。

図 17-5 同和問題の解決とのかかわり(選択は1つ)≪結婚時の身元調査(問 6-3)との比較≫

- ■基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う
- □自分ではどうしようもない問題だから、しかるべき人たちが解決してくれると思う
- □自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う
- ■同和地区の人の問題だから、自分とは直接関係のない問題だと思う
- ■よく考えていない
- □無回答

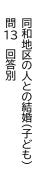


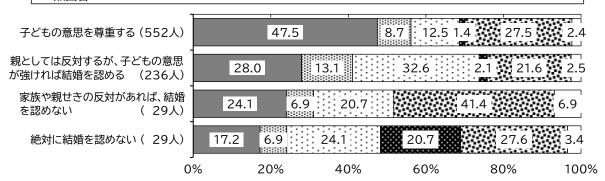
〇同和地区の人との結婚(子ども)(問13)との比較

同和地区の人と子どもの結婚について「子どもの意思を尊重する」と回答した人は、「基本的人権にかか わる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」が高くなっている。

図 17-6 同和問題の解決とのかかわり(選択は1つ)≪同和地区の人との結婚(子ども)(問 13)との比較≫

- ■基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う
- □自分ではどうしようもない問題だから、しかるべき人たちが解決してくれると思う
- □自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う
- ■同和地区の人の問題だから、自分とは直接関係のない問題だと思う
- ■よく考えていない
- □無回答





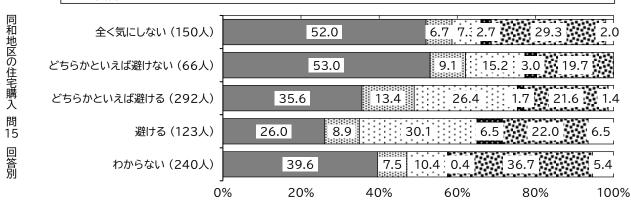
○同和地区の住宅購入(問15)との比較

同和地区の住宅購入を避けない方向の回答をした人は、「基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民 の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」が高くなっている。

図 17-7 同和問題の解決とのかかわり(選択は1つ)≪同和地区の住宅購入(問 15)との比較≫

- ■基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う □自分ではどうしようもない問題だから、しかるべき人たちが解決してくれると思う
- □自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う
- ■同和地区の人の問題だから、自分とは直接関係のない問題だと思う
- □よく考えていない

□無回答

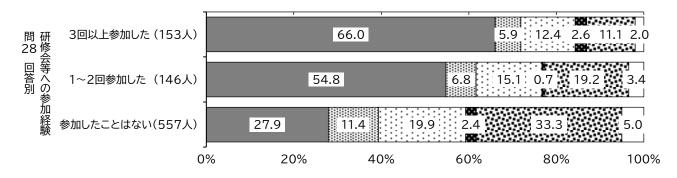


○研修会等への参加経験(問28)との比較

研修会等への参加経験が多い人ほど、「基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」が高くなる傾向にある。

図 17-8 同和問題の解決とのかかわり(選択は1つ)《研修会等への参加経験(問 28)との比較》

- ■基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う
- □自分ではどうしようもない問題だから、しかるべき人たちが解決してくれると思う
- □自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う
- ■同和地区の人の問題だから、自分とは直接関係のない問題だと思う
- ■よく考えていない
- □無回答



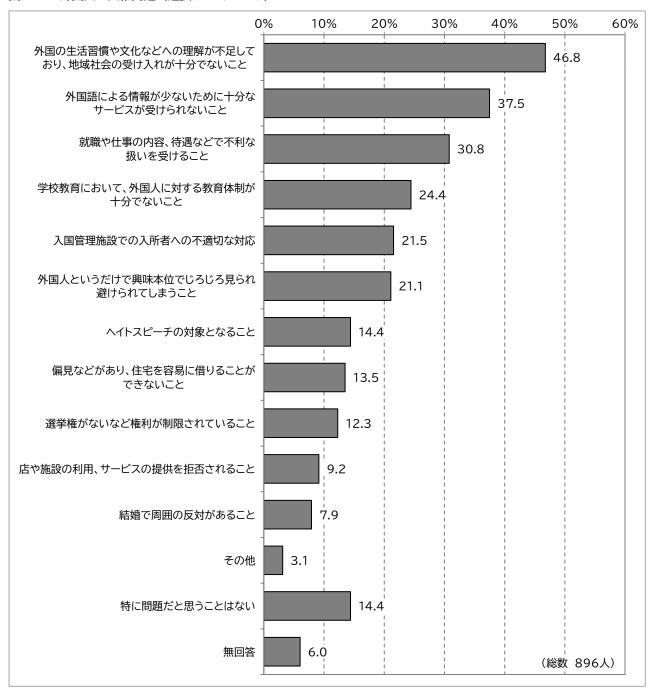
18. 外国人の人権問題

問18 日本で生活する外国人の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。 (選択はいくつでも)

日本で生活する外国人の人権について、特にどのようなことが問題だと思うかたずねたところ、「外国の生活習慣や文化などへの理解が不足しており、地域社会の受け入れが十分でないこと」が46.8%と最も高く、以下、「外国語による情報が少ないために十分なサービスが受けられないこと」37.5%、「就職や仕事の内容、待遇などで不利な扱いを受けること」30.8%となっている。

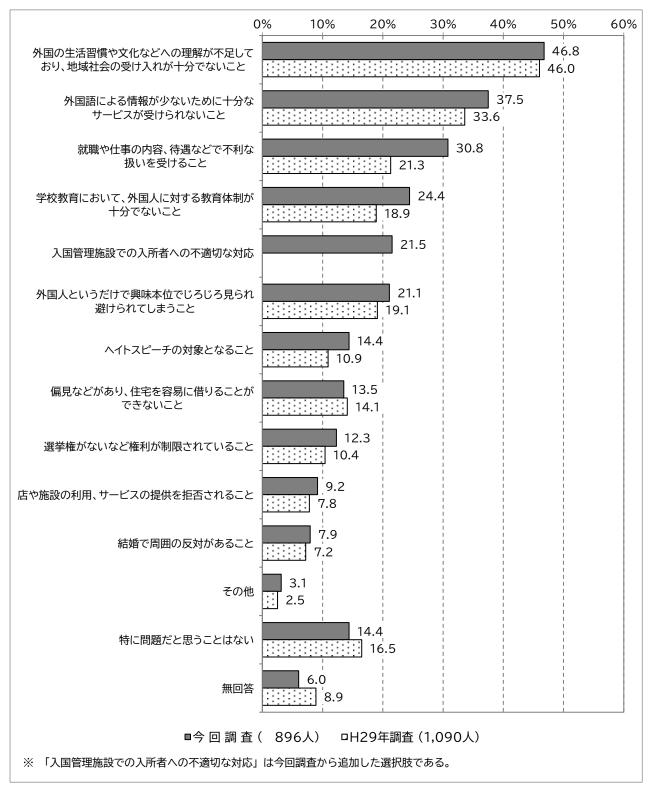
一方で、「特に問題だと思うことはない」が14.4%となっている。

図 18-1 外国人の人権問題(選択はいくつでも)



平成29年調査と比較すると、「就職や仕事の内容、待遇などで不利な扱いを受けること」、「学校教育において、外国人に対する教育体制が十分でないこと」が高くなっている。

図 18-2 外国人の人権問題(選択はいくつでも)≪過去の調査との比較≫



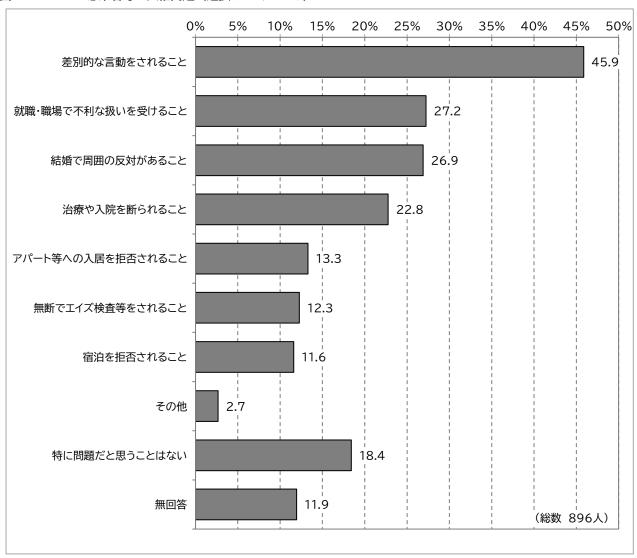
19. H I V 感染者等の人権問題

問19 エイズの原因ウイルス(HIV)感染者等の人権について、特にどのようなことが問題だと 思いますか。(選択はいくつでも)

エイズの原因ウイルス(HIV)感染者等の人権について、特にどのようなことが問題だと思うかたず ねたところ、「差別的な言動をされること」が45.9%と最も高く、以下、「就職・職場で不利な扱いを受け ること」27.2%、「結婚で周囲の反対があること」26.9%となっている。

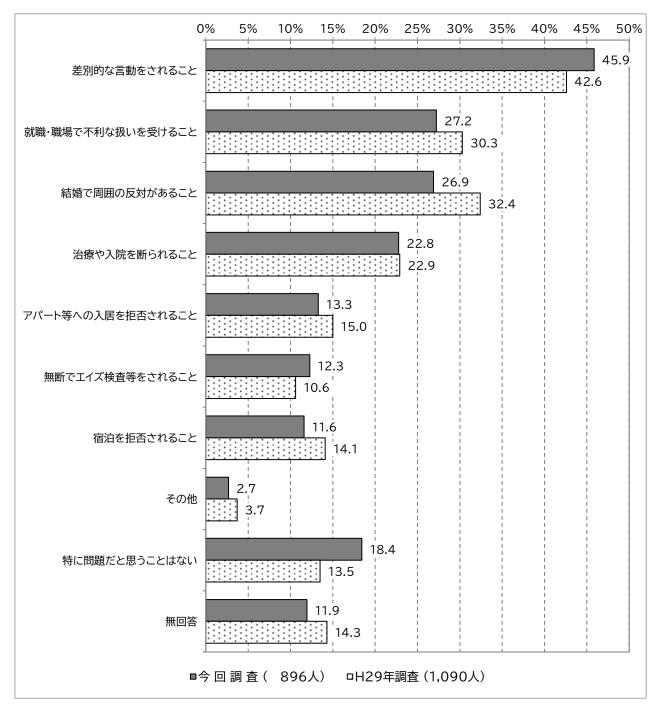
一方で、「特に問題だと思うことはない」が18.4%となっている。

図 19-1 H I V 感染者等の人権問題(選択はいくつでも)



平成29年調査と比較すると、「結婚で周囲の反対があること」が低く、「特に問題だと思うことはない」 が高くなっている。

図 19-2 H I V感染者等の人権問題(選択はいくつでも) 《過去の調査との比較》



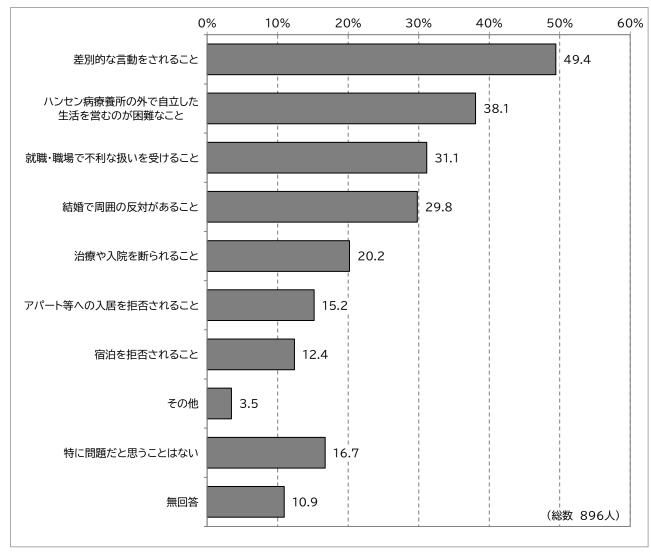
20. ハンセン病回復者等の人権問題

問20 ハンセン病回復者やその家族の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。 (選択はいくつでも)

ハンセン病回復者やその家族の人権について、特にどのようなことが問題だと思うかたずねたところ、「差別的な言動をされること」が49.4%と最も高く、以下、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」38.1%、「就職・職場で不利な扱いを受けること」31.1%、「結婚で周囲の反対があること」29.8%となっている。

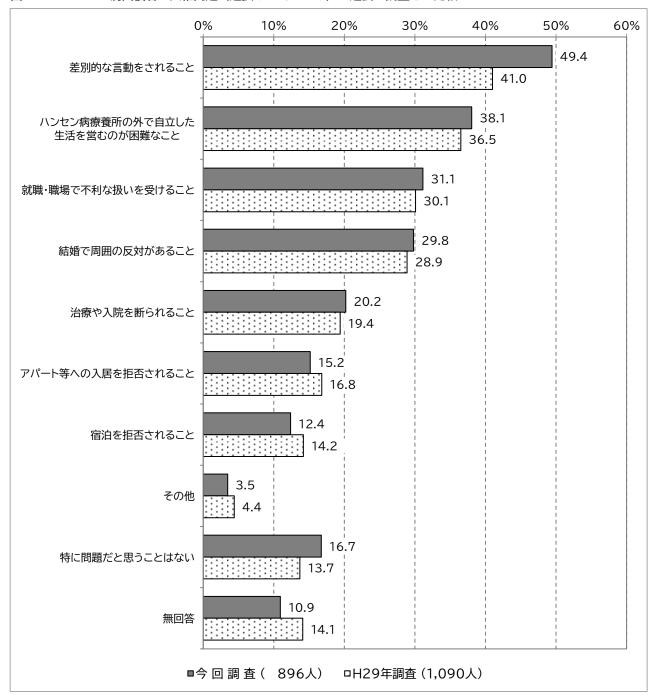
一方で、「特に問題だと思うことはない」が16.7%となっている。





平成29年調査と比較すると、「差別的な言動をされること」、「特に問題だと思うことはない」が高くなっている。

図 20-2 ハンセン病回復者の人権問題(選択はいくつでも)≪過去の調査との比較≫

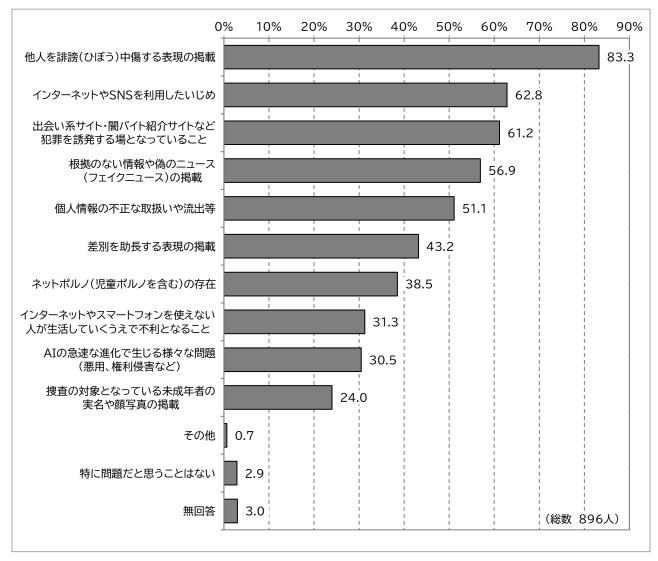


21. インターネット・ITに関する人権問題

問21 インターネット(SNSを含む)や情報技術(IT)に関する人権問題について、特にどのようなことが問題だと思いますか。(選択はいくつでも)

インターネット(SNSを含む)や情報技術(IT)に関する人権問題について、特にどのようなことが問題だと思うかたずねたところ、「他人を誹謗(ひぼう)中傷する表現の掲載」が83.3%と最も高く、以下、「インターネットやSNSを利用したいじめ」62.8%、「出会い系サイト・闇バイト紹介サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」61.2%、「根拠のない情報や偽のニュース(フェイクニュース)の掲載」56.9%、「個人情報の不正な取扱いや流出等」51.1%となっている。

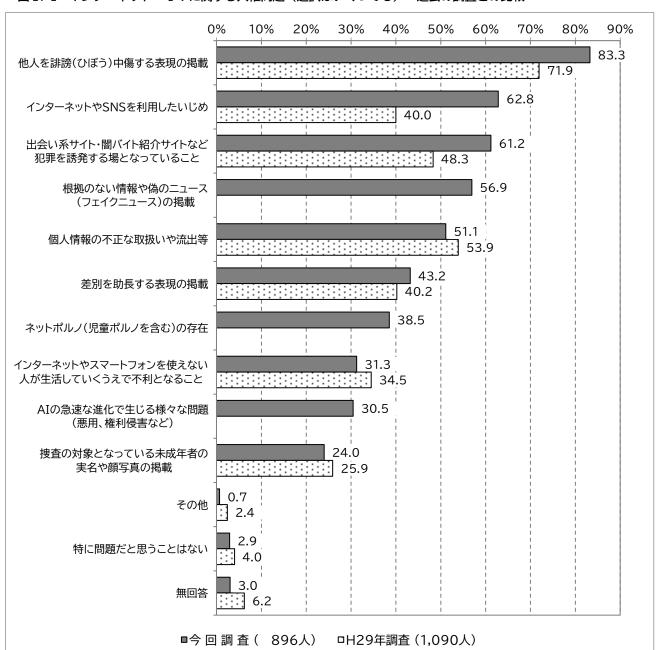




平成29年調査と比較すると、「インターネットやSNSを利用したいじめ」、「出会い系サイト・闇バイト紹介サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」が高くなっている。

また、「根拠のない情報や偽のニュース(フェイクニュース)の掲載」は、今回調査から追加した項目であるが5割を超える回答があった。

図 21-2 インターネット・ΙTに関する人権問題(選択はいくつでも)≪過去の調査との比較≫

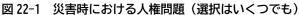


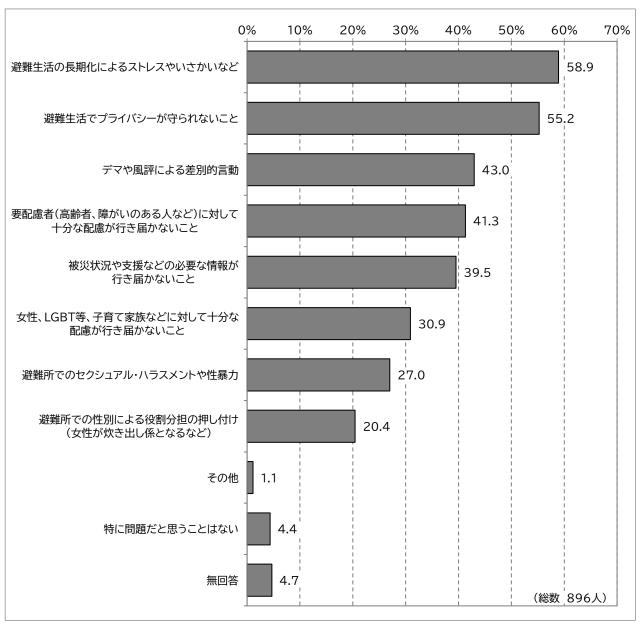
^{※「}根拠のない情報や偽のニュース(フェイクニュース)の掲載」、「ネットポルノ(児童ポルノを含む)の存在」、「AIの急速な 進化で生じる様々な問題(悪用、権利侵害など)」は今回調査から追加した選択肢である。

22. 災害時における人権問題

問22 災害時における人権問題について、特にどのようなことが問題だと思いますか。 (選択はいくつでも)

災害時における人権問題について、特にどのようなことが問題だと思うかたずねたところ、「避難生活の長期化によるストレスやいさかいなど」が58.9%と最も高く、以下、「避難生活でプライバシーが守られないこと」55.2%、「デマや風評による差別的言動」43.0%、「要配慮者(高齢者、障がいのある人など)に対して十分な配慮が行き届かないこと」41.3%、「被災状況や支援などの必要な情報が行き届かないこと」39.5%となっている。



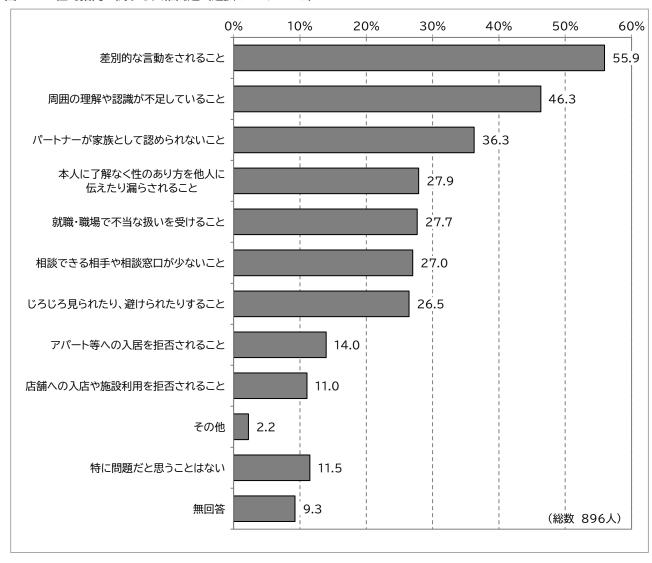


23. 性的指向に関する人権問題

問23 同性愛など性的指向に関する人権問題について、特にどのようなことが問題だと思いますか。 (選択はいくつでも)

同性愛など性的指向に関する人権問題について、特にどのようなことが問題だと思うかたずねたところ、「差別的な言動をされること」が55.9%と最も高く、以下、「周囲の理解や認識が不足していること」46.3%、「パートナーが家族として認められないこと」36.3%となっている。

図 23-1 性的指向に関する人権問題(選択はいくつでも)

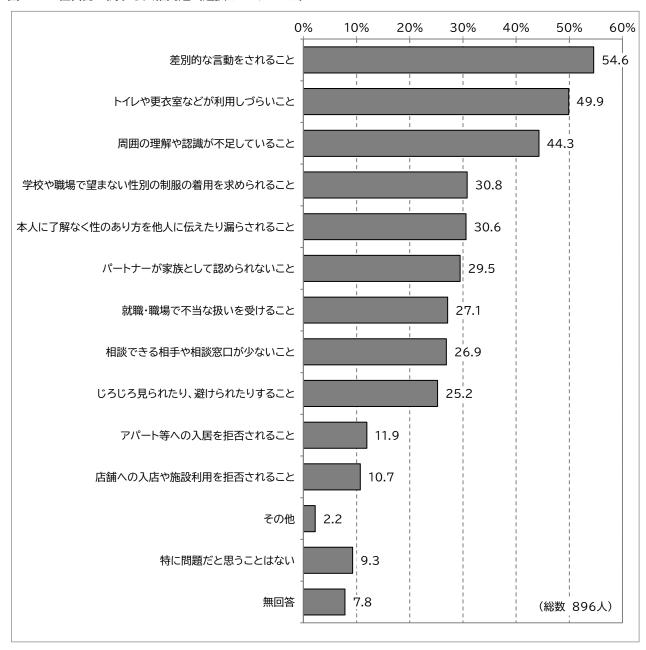


24. 性自認に関する人権問題

問24 トランスジェンダーなど性自認に関する人権問題について、特にどのようなことが問題だと 思いますか。(選択はいくつでも)

トランスジェンダーなど性自認に関する人権問題について、特にどのようなことが問題だと思うかたず ねたところ、「差別的な言動をされること」が54.6%と最も高く、以下、「トイレや更衣室などが利用しづ らいこと」49.9%、「周囲の理解や認識が不足していること」44.3%となっている。

図 24-1 性自認に関する人権問題(選択はいくつでも)

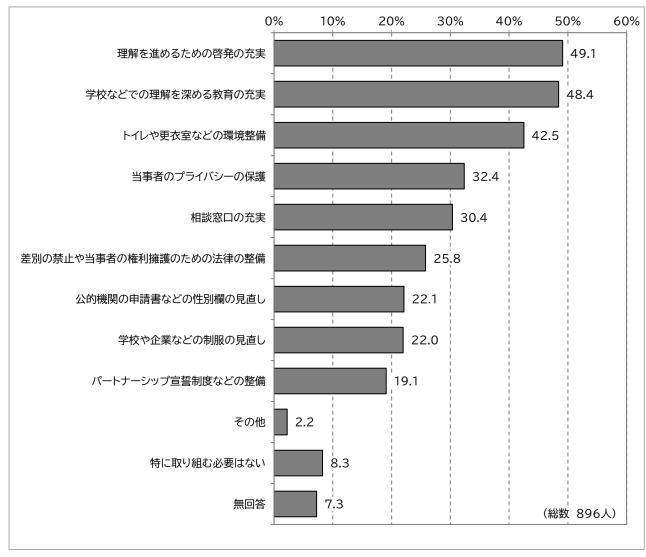


25. LGBT等に関する人権問題の解決方法

問25 LGBT等(同性愛やトランスジェンダーなど)に関する人権問題を解決するためには、どのようにしたらよいとお考えですか。(選択はいくつでも)

LGBT等(同性愛やトランスジェンダーなど)に関する人権問題を解決するためには、どのようにしたらよいと考えるかをたずねたところ、「理解を進めるための啓発の充実」が 49.1%と最も高く、以下、「学校などでの理解を深める教育の充実」48.4%、「トイレや更衣室などの環境整備」42.5%、「当事者のプライバシーの保護」32.4%、「相談窓口の充実」30.4%となっている。

図 25-1 LGBT等に関する人権問題の解決方法(選択はいくつでも)

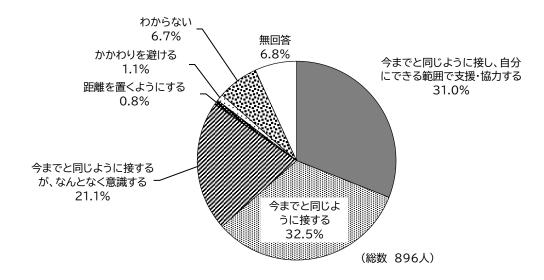


26. LGBT等についてのカミングアウト

問26 身近な人からLGBT等(同性愛やトランスジェンダーなど)であると打ち明けられたらどう しますか。(選択は1つ)

身近な人からLGBT等(同性愛やトランスジェンダーなど)であると打ち明けられたらどうするかをたずねたところ、「今までと同じように接し、自分にできる範囲で支援・協力する」31.0%、「今までと同じように接する」方向の回答が合計で 63.5%となっている。また、「今までと同じように接するが、なんとなく意識する」は21.1%となっている。一方、「距離を置くようにする」0.8%、「かかわりを避ける」1.1%で、「避ける」方向の回答が合計で1.9%となっている。「わからない」は6.7%であった。

図 26-1 LGBT等についてのカミングアウト(選択は1つ)

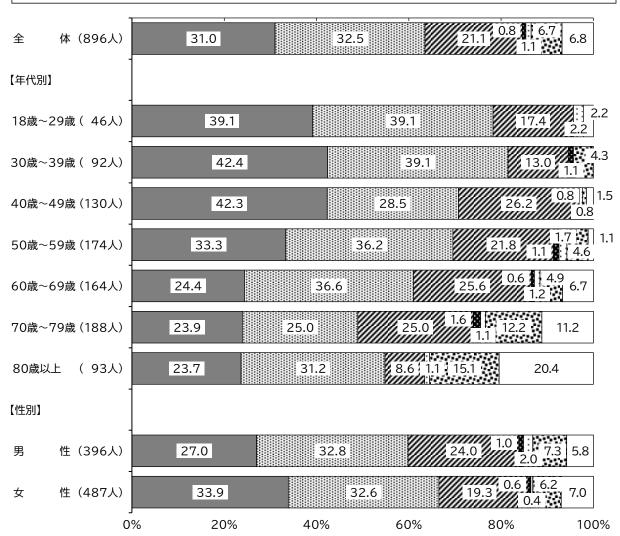


【年代別・性別の状況】

年代別でみると、年代が下がるほど「今までと同じように接する」方向の回答が高くなる傾向にある。 また、40歳代以下では、約4割が「今までと同じように接し、自分にできる範囲で支援・協力する」と回答している。

図 26-2 LGBT等についてのカミングアウト(選択は1つ)《年代別・性別》

■今までと同じ □今までと同じ □今までと同じ □距離を置く □かかわりを □わからない □無回答ように接し、 ように接する ように接するが、 ようにする 避ける 自分にできる なんとなく意識 範囲で支援・ する 協力する

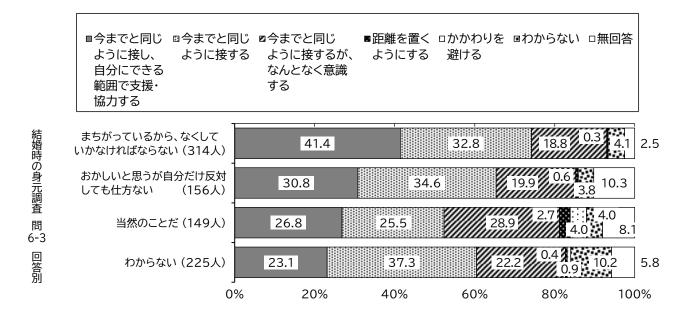


【他の設問との比較】

〇結婚時の身元調査(問6-3)との比較

結婚時の身元調査を容認しない意見の人ほど「今までと同じように接する」方向の回答が高く、「意識する・避ける」方向の回答が低くなる傾向にある。

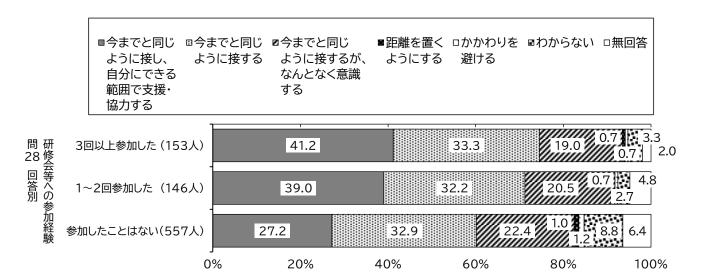
図 26-3 LGBT等についてのカミングアウト(選択は1つ)≪結婚時の身元調査(問 6-3)との比較≫



○研修会等への参加経験(問28)との比較

研修会等への参加経験が多い人ほど、「今までと同じように接する」方向の回答が高くなっている。

図 26-4 LGBT等についてのカミングアウト (選択は1つ) ≪研修会等への参加経験(問 28) との比較≫

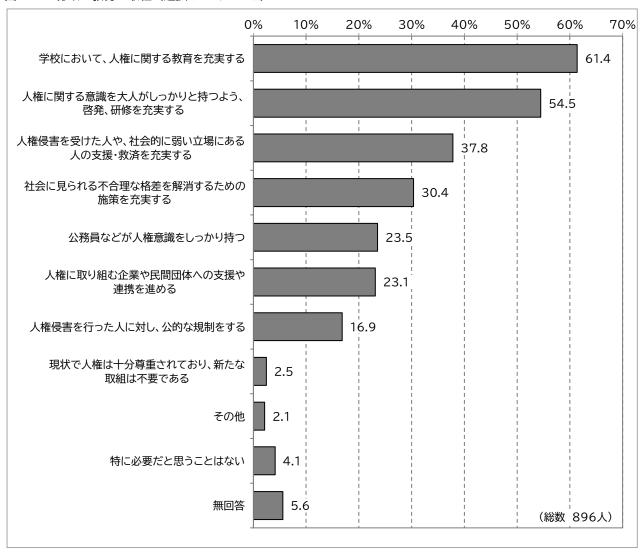


27. 行政・教育の取組

問27 人権尊重の社会を実現するために、行政や教育としてどのような取組が必要だと思いますか。 (選択はいくつでも)

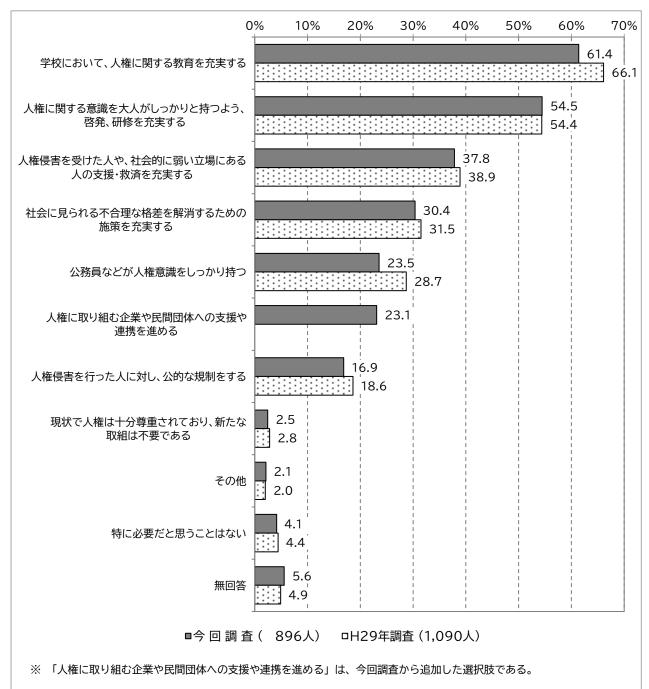
人権尊重の社会を実現するために、行政や教育としてどのような取組が必要だと思うかをたずねたところ、「学校において、人権に関する教育を充実する」が 61.4%と最も高く、以下、「人権に関する意識を大人がしっかりと持つよう、啓発、研修を充実する」54.5%、「人権侵害を受けた人や、社会的に弱い立場にある人の支援・救済を充実する」37.8%、「社会に見られる不合理な格差を解消するための施策を充実する」 30.4%となっている。

図 27-1 行政・教育の取組(選択はいくつでも)



平成29年調査と比較して大きな変化はみられない。

図 27-2 行政・教育の取組(選択はいくつでも)≪過去の調査との比較≫



28. 研修会等への参加経験

問28 これまでに、人権問題の講演会や研修会(オンライン・配信を含む)などへ参加したことがありますか。(選択は1つ)

いてたずねたところ、「3回以上参加した」17.1%、「1~2回参加した」16.3%で、研修会等への参加経験があるとの回答の合計が33.4%となっている。一方で、「参加したことはない」が64.4%であった。

人権問題の講演会や研修会などへの参加経験につ

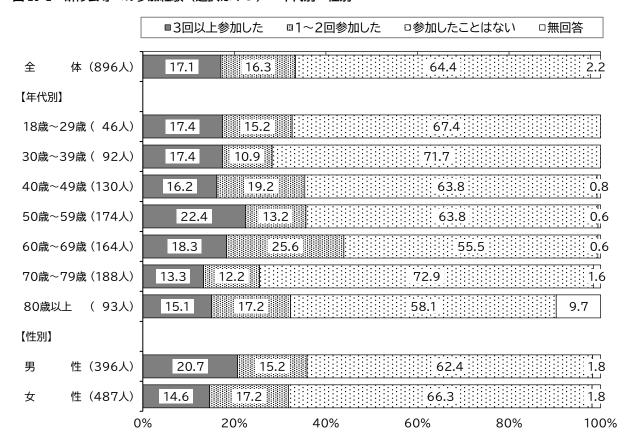
無回答 3回以上 参加した 17.1% 1~2回 参加したこと はない 64.4% (総数 896人)

図 28-1 研修会等への参加経験(選択は1つ)

【年代別・性別の状況】

年代別でみると、研修会等への参加経験がある人は、60歳代が最も高くなっている。

図 28-2 研修会等への参加経験(選択は1つ)≪年代別・性別≫



過去5回の調査と比較すると、一定の傾向は読み取りにくい。全体では、平成29年調査とは、ほぼ同様の傾向となっている。

但し、年代別の状況について平成29年調査と比較すると、30歳代以下で研修会等への参加経験のある 回答が高くなっている。(平成29年調査での年代別・性別の状況を(図28-4)に掲載)

図 28-3 研修会等への参加経験(選択は1つ)≪過去の調査との比較≫

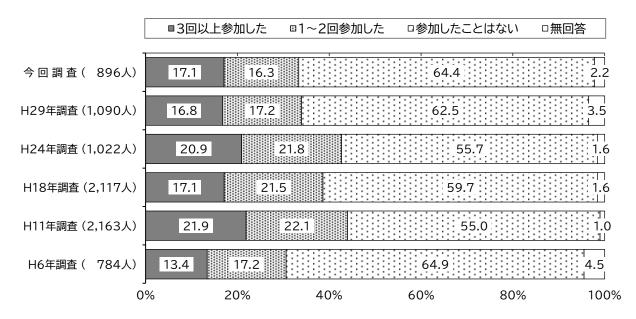
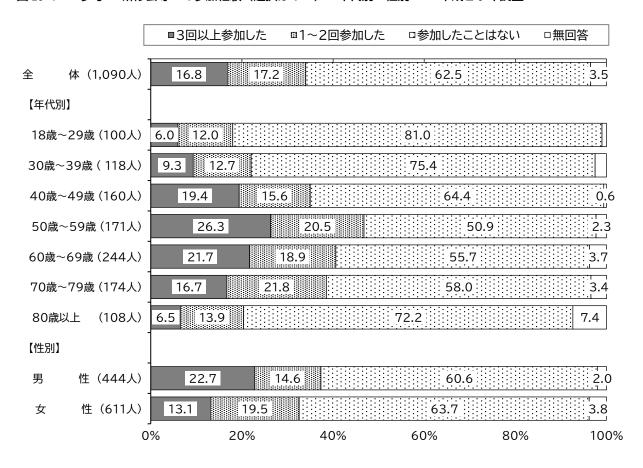


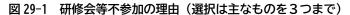
図 28-4 <参考> 研修会等への参加経験(選択は1つ)《年代別・性別》《平成29年調査》

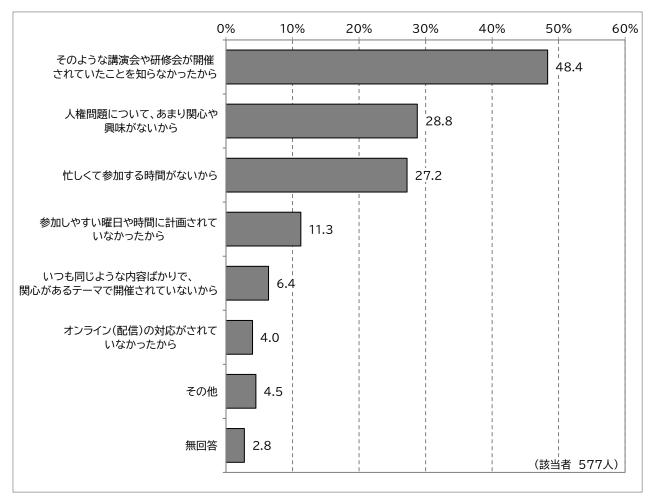


29. 研修会等不参加の理由

問29 (問28で「研修会等に参加したことはない」と回答された方に)参加されなかった理由をお聞かせ ください。(選択は主なものを3つまで)

問28で「研修会等に参加したことはない」と回答した577人に対して、参加しなかった理由をたずねたところ、「そのような講演会や研修会が開催されていたことを知らなかったから」が48.4%で最も多く、以下、「人権問題について、あまり関心や興味がないから」28.8%、「忙しくて参加する時間がないから」27.2%となっている。



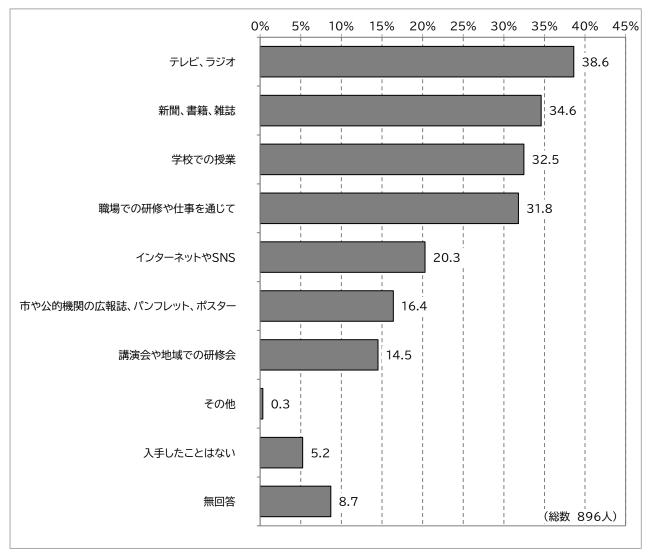


30. 人権知識の入手経路

問30 これまでに、人権に関する知識はどこから入手されましたか。(選択は主なものを3つまで)

これまでに、人権に関する知識をどこから入手したかをたずねたところ、「テレビ、ラジオ」が 38.6%と 最も高く、以下、「新聞、書籍、雑誌」 34.6%、「学校での授業」 32.5%、「職場での研修や仕事を通じて」 31.8%となっている。

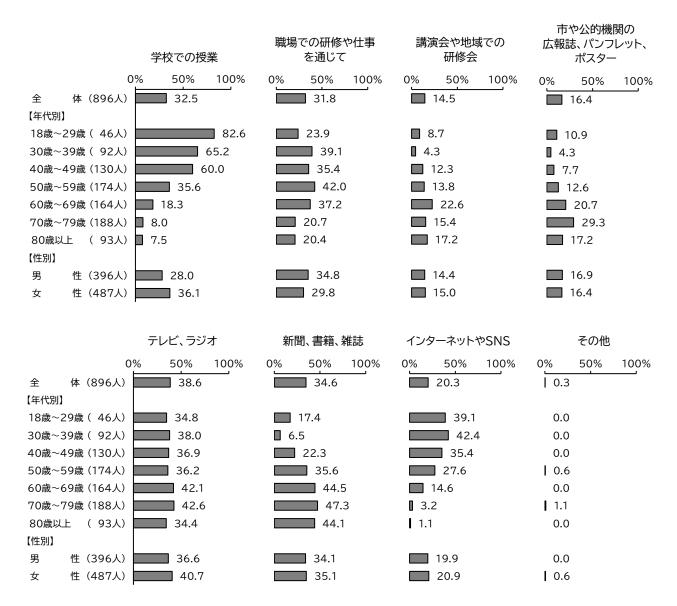
図 30-1 人権知識の入手経路(選択は主なものを3つまで)



【年代別・性別の状況】

年代別でみると、「学校での授業」、「インターネットやSNS」が、年代が低くなるほど高くなる傾向にある。

図 30-2 人権知識の入手経路(選択は主なものを3つまで)《年代別・性別》

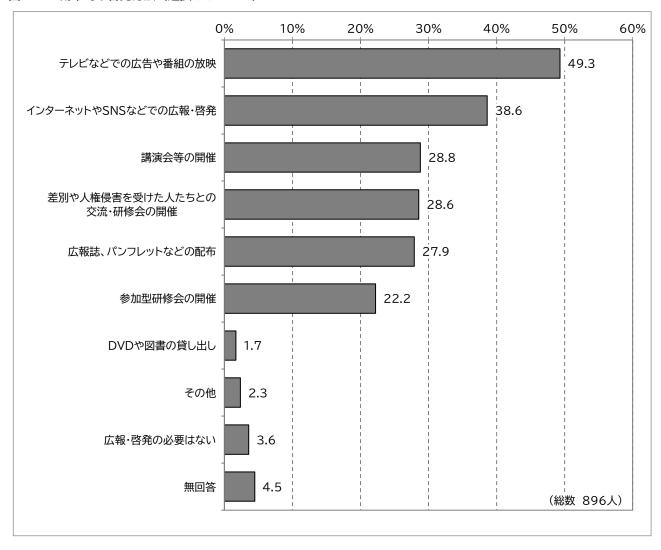


31. 効果的な啓発方法

問31 人権問題解決のための広報・啓発を進めるためには、どのような方法が効果的だと思いますか。(選択は特に効果的だと思われるものを3つまで)

人権問題解決のための広報・啓発を進めるためには、どのような方法が効果的だと思うかをたずねたところ、「テレビなどでの広告や番組の放映」が49.3%と最も高く、以下、「インターネットや SNS などでの広報・啓発」38.6%、「講演会等の開催」28.8%、「差別や人権侵害を受けた人たちとの交流・研修会の開催」28.6%、「広報誌、パンフレットなどの配布」27.9%となっている。

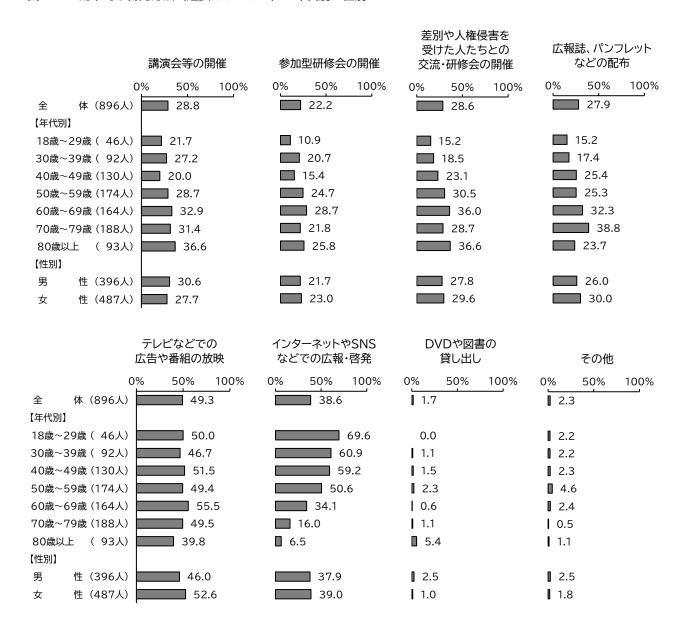
図 31-1 効果的な啓発方法(選択は3つまで)



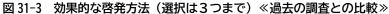
【年代別・性別の状況】

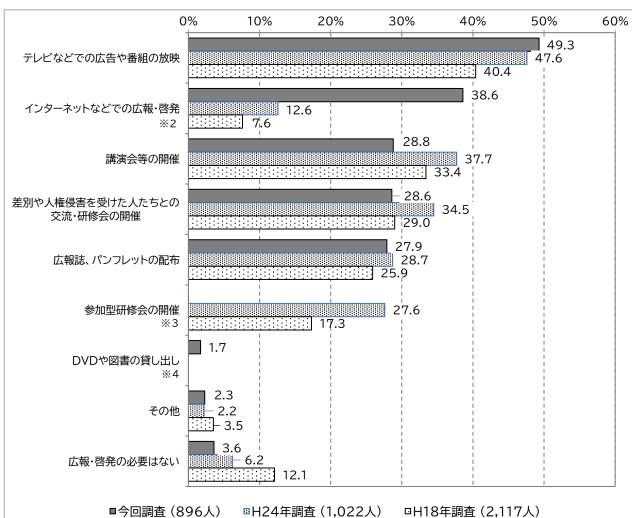
年代別でみると、「差別や人権侵害を受けた人たちとの交流・研修会の開催」、「広報誌、パンフレットなどの配布」で年代が高い層を中心に高く、「インターネットや SNS などでの広報・啓発」は、年代が低くなるほど高くなる傾向にある。

図 31-2 効果的な啓発方法(選択は3つまで)《年代別・性別》



平成24年調査、平成18年調査と比較すると、「インターネットなどでの広報・啓発」が特に高くなっている。





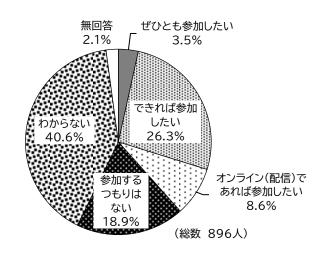
- ※1 H24年調査、H18年調査では、回答がいくつでも選択可能となっている。
- ※2 「インターネットなどでの広報・啓発」は、H24年調査、H18年調査では「インターネットや電子メールによる 広報・啓発」、今回調査では「インターネットやSNSなどでの広報・啓発」となっている。
- ※3 今回調査では、「参加型研修会の開催」の選択肢はない。
- ※4 H24年調査、H18年調査では、「DVDや図書の貸し出し」の選択肢はない。
- ※5 H29年調査では、設問自体の設定がない。

32. 研修会等への今後の参加

問32 今後、人権問題の講演会や研修会などがあれば、参加されますか。(選択は1つ)

人権問題の講演会や研修会などへの今後の参加 図 32-1 研修会等への今後の参加(選択は1つ)

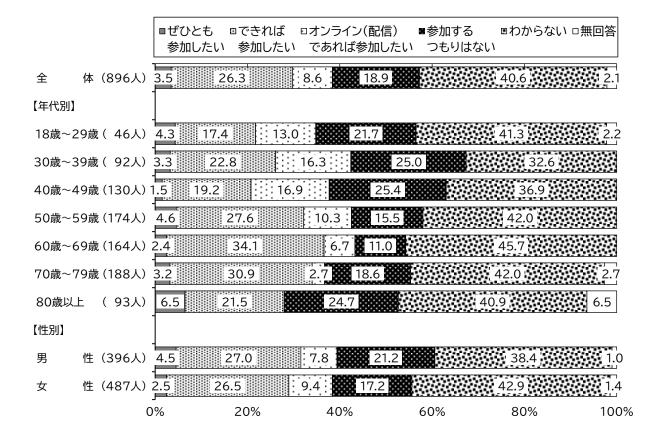
意向をたずねたところ、「せひとも参加したい」3.5%、「できれば参加したい」26.3%、「オンライン(配信)であれば参加したい」8.6%で、参加意向のある回答は合計で38.4%となっている。一方で、「参加するつもりはない」は18.9%となっている。また、「わからない」が40.6%となっている。



【年代別・性別の状況】

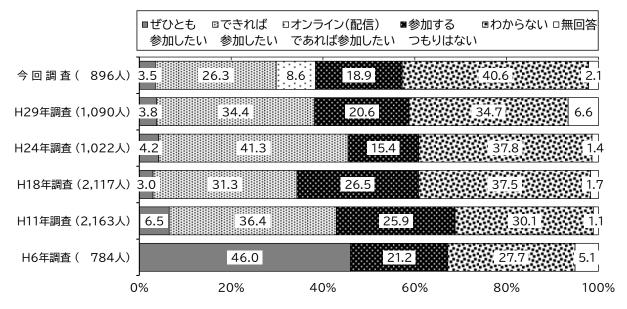
年代別でみると、「オンライン(配信)であれば参加したい」が30歳代と40歳代で高くなっている。

図 32-2 研修会等への今後の参加(選択は1つ)≪年代別・性別≫



過去5回の調査と比較すると、一定の傾向は読み取りにくい。平成29年調査とは、ほぼ同様の傾向である。

図 32-3 研修会等への今後の参加(選択は1つ)) ≪過去の調査との比較≫



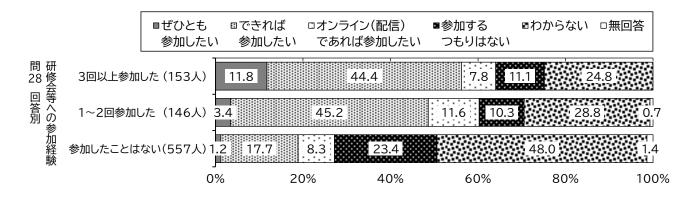
- ※1 H6年調査では、「ぜひとも参加したい」、「できれば参加したい」を併せて、「参加したい」となっている。
- ※2 「オンラインであれば参加したい」は、今回調査から追加した選択肢である。

【他の設問との比較】

〇研修会等への参加経験(問28)との比較

研修会等への参加経験が多い人ほど、参加意向のある回答が高くなる傾向にある。

図 32-4 研修会等への今後の参加(選択は1つ) 《研修会等への参加経験(問 28)との比較》



人権に関する市民意識調査報告書 (令和5年度調査)

令和6年3月

松江市市民部人権男女共同参画課 〒690-0061 松江市白潟本町43番地 電話 0852-55-5331